VE8900/VE8950/VE8952

日本語版ユーザーマニュアル

本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、VE8900/VE8950/VE8952 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社
技術部
TEL :03-5615-5811
MAIL :support@atenjapan.jp

2021 年 1 月 14 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元であるATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・ 製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。 また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご留意ください。

◆使用上の誤りによるもの
◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
◆ 日本国外で使用されたもの
◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1)不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口に連絡の上、製品の状態を確認してください。 この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2)本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3)製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②型番 CL からはじまる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	3 年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から30 日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。
※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。
※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。
※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。
※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

【補足】

・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行いますが、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当代金を販売代理店経由でご請求いたします。
・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(https://www.aten.com/jp/ja/)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。

2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。

4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせて頂きます。

5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社　営業部 TEL：03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社　技術部 TEL　：03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ i
ATEN ジャパン製品保証規定 ii
製品についてのお問い合わせ v
目次 1
EMC に関する情報 5
RoHS 5
安全にお使い頂くために 6
全般 6
ラックマウント 8
同梱品 9
VE8900T 9
VE8900R 9
VE8950T 9
VE8950R 9
VE8952T 10
VE8952R 10
本マニュアルについて 11
マニュアル表記について 12
第 1 章 はじめに 13
概要 13
特長と利点 14
使用前の下準備 18
第 2 章 ハードウェアセットアップ 19
製品各部名称 19
VE8900T/VE8950T/VE8952T（トランスミッター） フロントパネル 19
VE8900T/VE8950T/VE8952T（トランスミッター） リアパネル 20
VE8900R/VE8950R/VE8952R（レシーバー） フロントパネル 20
VE8900R/VE8950R/VE8952R（レシーバー） リアパネル 21
VE8900T/VE8950T/VE8952T（トランスミッター） トップパネル 22
VE8900R/VE8950R/VE8952R（レシーバー） トップパネル 23
VE8900/VE8950/VE8952 のマウント 24
壁へのマウント 24

ラックマウント 24
VE8900/VE8950 の接続 25
VE8952 の接続 28
第 3 章 パネル操作 31
概要 31
状態 LED 31
パネル各部名称 32
デバイスパネルを使ったソースの割り当て方法 34
第 4 章 管理 35
概要 35
ログイン IP アドレスの検索 36
OSD からログイン IP アドレスを確認するには 36
Find My VE の拡張機能 37
Find My VE 拡張機能を使った VE マネジャーの起動 40
VE マネジャーへのログインと設定 42
メイン画面 46
適用/自動適用 48
VE マネジャーを使ったソースの割り当て方法 49
ビデオウォールの設定 52
ビデオウォールのレイアウト作成 53
ビデオウォールのレイアウト編集 56
プレビューの編集 57
プロファイル 59
プロファイルの作成 59
プロファイルの編集/削除/切断 61
プロファイルの選択/適用 63
プロファイルのスケジュール設定 64
VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの管理 67
VE8900/VE8950/VE8952 の状態確認 67
第 5 章 システム設定 68
概要 68
全般設定 68
トランスミッターの設定 70
レシーバーの設定 72
一括設定 75
メンテナンス 77

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのファームウェアアップグレード 77
全デバイスの同期 78
VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの設定のバックアップ 78
VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの設定のリストア 79
リカバリーモード 80
アカウントの設定 81
第 6 章 CLI コマンド 82
概要.....82
操作を始める前に 82
コマンドの実行.....83
コマンド 85
基本操作.....85
ソースの切替.....86
ビデオ、USB、RS-232、IR パスの切替.....87
ビデオ、USB、RS-232、IR パスの無効化 88
ポート切替アラートの表示.....89
システム設定の確認 90
ビデオウォールの設定 91
VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーやビデオウォールのミュート.....92
ビデオ出力の無効化 93
レシーバーにおける OSD 表示の有効化/無効化 94
EDID モードの設定 95
VE8900/VE8950/VE8952 の再起動.....96
ボーレートの設定 97
デバイスの状態表示 98
第 7 章 モバイル制御アプリ 99
概要.....99
システム要件 99
アプリのインストールと設定 99
メイン画面 100
ライブビュー 101
ソースの切替.....101
複数ソース/ディスプレイの切替 103
ビデオウォール/ディスプレイにおける操作モードの変更.....106
表示プロファイルの適用 107
プロファイルのスケジュール設定.....108

システムの設定と状態 110
付録 111
製品仕様 111
VE8900 111
VE8950 113
VE8952 115
対応ブラウザ 117

EMC に関する情報

FCC（連邦通信委員会）電波干渉声明

本製品は、FCC（米国連邦通信委員会）規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

FCC による注意：本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告：本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。

提案：FCC および CE 規格を確実に順守するために、STP ケーブルを使用するようにしてください。

本製品は、FCC（米国連邦通信委員会）規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の２つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉を発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会および理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面（台車、簡易的なスタンドやテーブル等）を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 電源コンセントの形状が異なり、製品付属の電源アダプターを接続できない場合には電気事業者に問い合わせて適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱ってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。

- 電源コードが破損した。
- 装置の上に液体をこぼした。
- 装置が雨や水にぬれた。
- 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
- 装置の動作に異変が見られる。（修理が必要です）
- 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。

◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

◆ 本製品をスタッキングする場合、ラックにロックする場合、フレームにネジ止めする場合やその他類似の方法で設置を行う場合には、製品を確実に固定するための安全装置が追加で必要になることがあります。

◆ 本製品は固定させて使用するように設計されているため、通常の動作中には動かさないようにしてください。

◆ Cat 5e/6 ケーブルは、電気ケーブル、変圧器、照明器具といった電波障害の発生源となりうる物から、できるだけ遠ざけて配線するようにしてください。また、これらのケーブルは、電線用導管に接続したり、電灯設備の上に置いたりしないようにしてください。

ラックマウント

- ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ラックへの通気を十分に確保してください。
- 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

VE8900/VE8950/VE8952 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

VE8900T

- ◆ VE8900T Video over IP トランスミッター（HDMI 対応）×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ フットパッド ×4
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

VE8900R

- ◆ VE8900R Video over IP レシーバー（HDMI 対応）×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ フットパッド ×4
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

VE8950T

- ◆ VE8950T Video over IP トランスミッター（4K HDMI 対応）×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ フットパッド ×4
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

VE8950R

- ◆ VE8950R Video over IP レシーバー（4K HDMI 対応）×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック ×1
- ◆ フットパッド ×4
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

VE8952T

- ◆ VE8900T Video over IP トランスミッター（4K＆PoE 対応）　×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック　×1
- ◆ 電源アダプター　×1
- ◆ フットパッド（4pcs）　×1
- ◆ クイックスタートガイド　*×1

VE8952R

- ◆ VE8952R Video over IP レシーバー（4K＆PoE 対応）　×1
- ◆ 3 極着脱式ターミナルブロック　×1
- ◆ 電源アダプター　×1
- ◆ フットパッド（4pcs）　×1
- ◆ クイックスタートガイド*　×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

＊　本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、VE8900/VE8950/VE8952 および ATEN VE マネジャーに関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のとおりです。

第1章　はじめに：VE8900/VE8950/VE8952 の特長、機能概要および導入前の下準備について説明します。

第2章　ハードウェアセットアップ：VE8900/VE8950/VE8952 の基本的なハードウェアセットアップの手順と操作方法について説明します。

第3章　パネル操作：VE8900/VE8950/VE8952 本体にあるプッシュボタンの LED 表示について説明します。

第4章　管理：VE マネジャーのメイン画面の概要、およびディスプレイレイアウトの作成と編集方法について説明します。

第5章　システム設定：全般設定に関する情報、および VE8900/VE8950/VE8952 システムファームウェアのバックアップ/リストア/アップグレードの方法について説明します。

第6章　CLI コマンド：Telnet、TCP、あるいは RS-232 シリアル通信を使ってセッションを確立するのに必要となる設定について説明します。また、対応する CLI コマンドの一覧も提供しています。

第7章　モバイル制御アプリ：モバイル制御アプリのセットアップ、設定、操作の各方法について説明します。

付録　製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[　　]	入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。
1.	番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
◆	◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
→	矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。
⚠	重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第 1 章
はじめに

概要

ATEN VE8900/VE8950/VE8952 Video over IP エクステンダーは、最大 1080p（VE8900）/4K（VE8950/VE8952）解像度の映像信号を、標準的なギガビットイーサネットスイッチ経由により、遅延や画質の劣化が少ない状態で長距離延長できる Video over IP エクステンダーです。

この製品を使用することで、経済的、かつ効率的にデジタルサイネージシステムを構築できます。本シリーズの Video over IP エクステンダー には、AV over IP システムを構築する際の課題に対処できる以下のような特長や利点があります。

- ◆ 制限の無い拡張性および柔軟性
- ◆ 簡単な IP 設定
- ◆ サーバーおよびソフトウェアの追加は不要
- ◆ 省コストを実現するデイジーチェーン接続対応
- ◆ 電源ケーブルなしで自由自在に配置
- ◆ モバイルアプリを使って自在に操作

本製品は、簡単に構築や操作ができるため、コンベンション施設や空港、大学、カンファレンスセンター、ショッピングモールといった環境において、1080p（VE8900）/4K（VE8950/VE8952）解像度での映像信号をマルチディスプレイに表示するような比較的規模の大きなデジタルサイネージに最適な製品です。

特長と利点

[遅延が非常に少ない軽量化圧縮]

◆ 最大解像度 1080p@60Hz（VE8900）/ 4K※1（VE8950、VE8952）の高画質映像信号を劣化が少ない状態で送信

◆ ATEN による高度な映像信号のロスレス圧縮テクノロジーを使用した高画質表示

◆ EDID Expert™（EDID エミュレーション）機能搭載 – スムーズな電源投入、高品質なディスプレイ、異なる画面間で高品質な解像度を使用するために最適な EDID 設定を選択

◆ ビデオ圧縮率は、実際の使い方に応じて選択できるよう、スムーズ、バランス、高品質を含む各種レベルを提供

[PoE 対応] ※VE8952 のみ

◆ 電源ケーブルや電源アウトレットを追加で準備しなくても、製品本体を好きな場所に設置可能

[制限の無い拡張性および柔軟性]

◆ LAN を介した 1 対 1、1 対多、多対 1、多対多通信に対応しているため、距離を気にすることなく、映像機器の拡張設置が可能

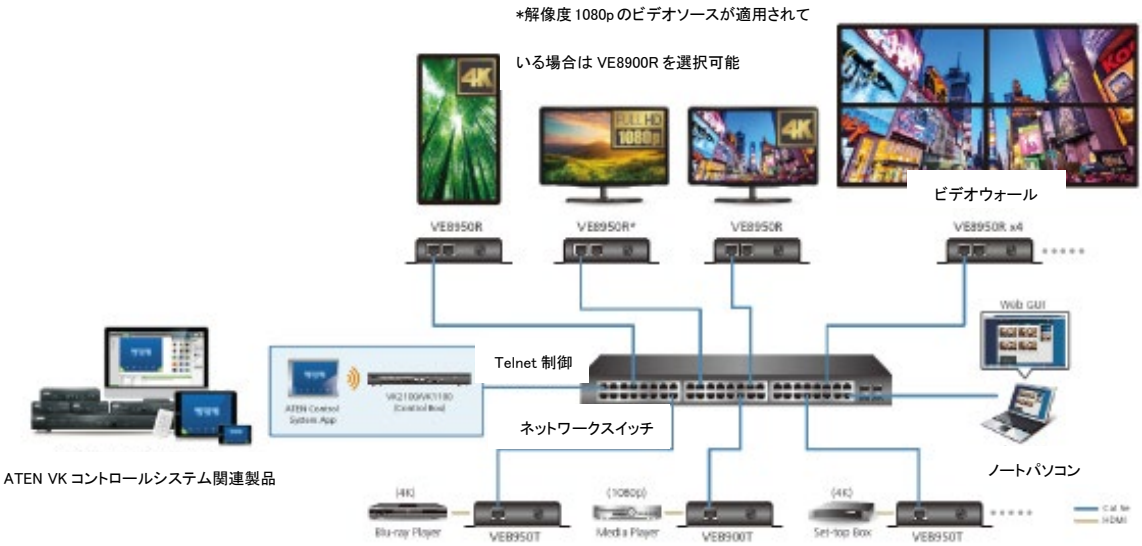
◆ エクステンダー、分配器、マトリックススイッチャーとしての機能の他に、ビデオウォール表示やデイジーチェーン接続にも対応

◆ スケーラー機能搭載で、入力映像信号を表示モニターの最大解像度に合わせて自動的にアップスケーリングできるため、最新の 4K（VE8950/VE8952）および 1080p（VE8900）対応ディスプレイの混在設置にも対応

[ATEN コントロールシステムとの連携]

◆ 統合ソリューション – ATEN コントロールシステムに対応しているため、VE8900/VE8950/VE8952 を CLI Telnet または RS-232 プロトコル経由でダイレクトに操作可能

◆ 簡単操作 – VE マネジャー、TV、プロジェクター、ソースプレイヤーや関連機器の操作を、タッチパネルやキーパッドから 1 クリックで実現



注意：	◆ PoE 機能に対応しているのは VE8952 のみです。また、PoE 対応のイーサネットスイッチと併用することで、電源ケーブルの配線や使用する電源アウトレットの数を減らすことができます。 ◆ イーサネットスイッチの選定方法やバンド幅の要件に関する詳細は、「VE89 シリーズ導入ガイド」や「VE89 シリーズネットワーク構築ガイド」を参照してください。

[自由度の高いスケジュール管理機能]

◆ ユーザーフレンドリーなスケジュール管理機能を提供 – 表示タスクのスケジュールを事前に計画可能

◆ 直感的なスケジュール管理オプションを提供 – カレンダーの全イベントを分刻みで詳細に管理するのをアシスト

◆ 個々のレシーバーやビデオウォールをグルーピングすることで、すべての VE89 ユニットを統合して、プロファイルを配置

◆ 複数のプロファイルは、選択された期間において、どんな順番でも再生できるように配置可能

[簡単な IP 設定]

◆ IT に関する知識が少なくても、簡単に IP 設定が可能

◆ トップパネルにあるプッシュボタンで、入力ソースを簡単に切替

[Web GUI ベースの管理方法によりコンピューター/ソフトウェアの追加不要]

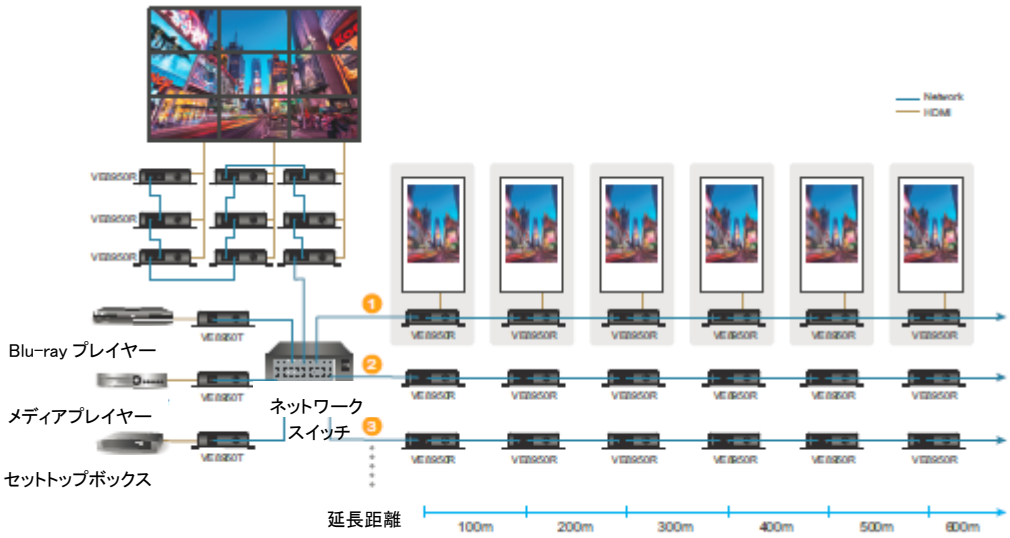
◆ シンプルなアクセス – Chrome ブラウザで IP アドレスを入力しなくても、Chrome ベースの無料ツール「Find My VE」で 1 クリックするだけで VE マネジャーに直接リンク可能

[省コストを実現するデイジーチェーン接続対応]※2、※3

◆ ネットワークスイッチのポートを有効活用できるように、レシーバーをデイジーチェーン接続することで、複数のディスプレイへの表示を実現

◆ 拡張が容易 － ポート数の多いネットワークスイッチやケーブルを多数用意することなく、セットアップや配線が可能

◆ ホテルや空港、大学のキャンパス、駅、ショッピングモールや展示会場といった、ディスプレイを数百メートル離れた場所に設置するような場合に最適



デイジーチェーン接続を使ってビデオウォールの設定や 100m 以上の AV システムの延長を実現

[ビデオウォール対応]

◆ 最大 8×8 面ビデオウォール対応(ディスプレイ数:最大 64 台)※4

◆ 水平/垂直(90° および 270°)回転表示対応

◆ 直感的に操作できるGUIを使用して、レイアウトプロファイル設定や映像のプレビュー表示、ビデオソースのドラッグアンドドロップ操作が可能

[オーディオエンベデッド/ディエンベデッド対応]

◆ トランスミッター － 個別の音声信号を HDMI 信号にエンベデッド可能

◆ レシーバー － HDMI 信号からディエンベデッドし、個別のオーディオ信号として送信

[複数の制御方法]

◆ 複数の制御方法 － イーサネットまたはトップパネルのボタンを使用してシステムの設定

◆ USB 接続対応 － USB ポート(USB2.0)に、キーボード、マウス、フラッシュメモリ、プリンター等の USB 周辺機器を接続可能※5

- ◆ 双方向性 IR チャンネル対応 – IR 信号は 1 度に片方向送信可能
- ◆ RS-232C 対応 – 双方向性 RS-232C シリアルポートにタッチパネルやバーコードスキャナー等のシリアルデバイスを接続可能

注意：

1. 対応する 4K 解像度は、3840×2160@30Hz(4:4:4)、3840×2160@60Hz(4:2:0)、4096×2160@30Hz(4:4:4)、4096×2160@60Hz(4:2:0)です。
2. デイジーチェーン接続数は、ネットワーク環境に依存します。最大 30 台までのデイジーチェーン接続を推奨します。詳細は、ATEN 販売代理店までお問い合わせください。
3. デイジーチェーン接続で機器を構成した場合、VE8952 の PoE 機能はお使いいただけません。
4. ネットワーク構造に関連する問題が発生した場合は、弊社製品ページで公開されている導入ガイドの内容をご確認いただくか、弊社技術サポートまでお問い合わせください。
5. アイソクロナス転送方式の USB デバイス（例：USB オーディオ）は非対応です。またその他の転送方式のすべての USB デバイスの動作を保証するものではありません。また 1 台のトランスミッターを通して認識できる USB デバイスは最大 4 台までです。

使用前の下準備

お使いの VE8900/VE8950/VE8952 をセットアップし、接続して設定してから使用する前に、下記の手順で下準備を行ってください。

1. ネットワーク構成と設定方針を定義してください。詳細については、弊社の Web ページから入手できる「VE89 シリーズ導入ガイド」や「VE89 シリーズネットワーク構築ガイド」を参照してください。
2. 壁またはラックに VE8900/VE8950/VE8952 を取り付けてください。詳細については、p.24「VE8900/VE8950/VE8952 のマウント」を参照してください。
3. VE8900/VE8950/VE8952 を、必要に応じてソースデバイス、ディスプレイ、ネットワーク、その他のハードウェア機器に接続してください。詳細については、p.25「VE8900/VE8950 の接続」および p.28「VE8952 の接続」の各セクションにおける接続図を参照してください。
4. 次のいずれかの方法で、ソースの割り当てを行ってください。

注意： 1 対 1 の機器構成でセットアップする場合は、この手順を省略してください。1 対 1 の機器構成の場合、ソースは自動的に割り当てられます。

◆ デバイスパネルを用いてソースを割り当てる。
詳細については、p.34「デバイスパネルを使ったソースの割り当て方法」を参照してください。

◆ VE マネジャーを用いてソースを割り当てる。
詳細については、p.42「VE マネジャーへのログインと設定」、および p.37「Find My VE の拡張機能」を参照してください。

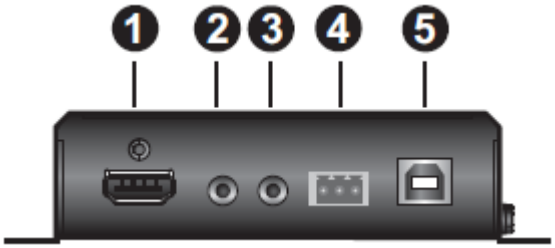
第 2 章
ハードウェアセットアップ

ハードウェアのセットアップを行う前に、下記の注意事項をご確認ください。

1. 機器の設置に際し重要な情報を p.6 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 必要な機器すべての接続が完了するまで、VE8900/VE8950/VE8952 の製品本体に電源を入れないでください。

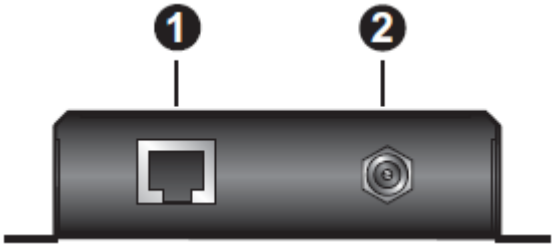
製品各部名称

VE8900T/VE8950T/VE8952T（トランスミッター） フロントパネル



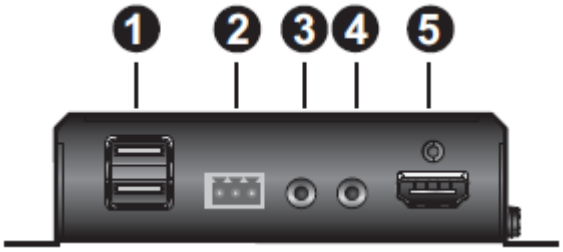
No.	名称	説明
1	HDMI 入力ポート	ソースデバイスにつながっている HDMI ケーブルを接続します。
2	オーディオ入力ポート	ソースデバイスのアナログオーディオプレーヤーに接続します。 **注意：**マイクには対応していません。
3	双方向 IR ポート	IR レシーバー/トランスミッターを接続すると、リモコンを使って設定を行うことができます。
4	RS-232 シリアルポート	シリアル制御用のコンピューターに接続します。
5	USB Type-B ポート	ソース（例：PC、Mac）に接続します。

VE8900T/VE8950T/VE8952T（トランスミッター） リアパネル



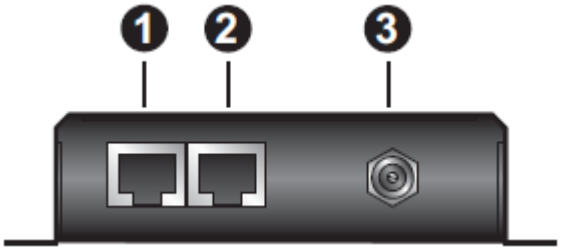
No.	名称	説明
1	LAN ポート （※VE8952T は PoE 対応）	ネットワークケーブルで製品本体を LAN に接続します。
2	電源ジャック	電源アダプターのケーブル部分を接続して、製品本体に電源を供給します。

VE8900R/VE8950R/VE8952R（レシーバー） フロントパネル



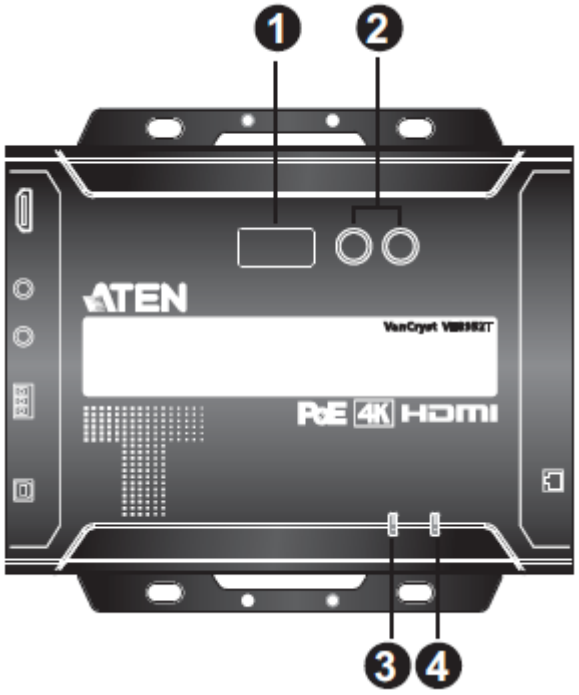
No.	名称	説明
1	USB Type-A ポート	PC などのホストデバイスに接続します。
2	RS-232 シリアルポート	シリアル機器に接続します。
3	双方向 IR ポート	IR レシーバー/トランスミッターを接続すると、リモコンを使って設定を行うことができます。
4	オーディオ出力ポート	出力機器のスピーカーに接続します。
5	HDMI 出力ポート	出力機器につながっている HDMI ケーブルを接続します。

VE8900R/VE8950R/VE8952R（レシーバー） リアパネル



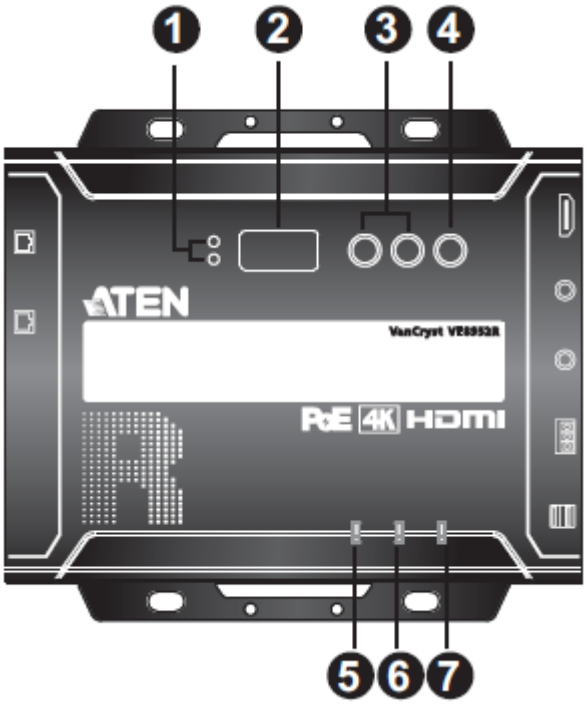
No.	名称	説明
1	LAN1 ポート （※VE8952R は PoE 対応）	ネットワークケーブルで製品本体を LAN に接続します。
2	LAN2 ポート	デイジーチェーン接続の機器構成において、LAN ケーブルを使って別の VE8900R/VE8950R/VE8952R に接続します。
3	電源ジャック	電源アダプターのケーブル部分を接続して、製品本体に電源を供給します。

VE8900T/VE8950T/VE8952T（トランスミッター） トップパネル



No.	名称	説明
1	ID 表示パネル	ID が表示されます。
2	Prev（+）/Next（-） ボタン	◆ VE8900/VE8950/VE8952 のデバイスに ID を割り当てます。 ◆ レシーバーに対してソース映像（トランスミッター）を割り当てます。
3	リンク LED	オレンジ色に点灯すると、LAN ポート 1 がイーサネットスイッチに接続していることを表します。詳細は p.31「状態 LED」を参照してください。
4	電源 LED	グリーンに点灯すると、そのユニットが給電されていることを表します。詳細は p.31「状態 LED」を参照してください。

VE8900R/VE8950R/VE8952R（レシーバー） トップパネル

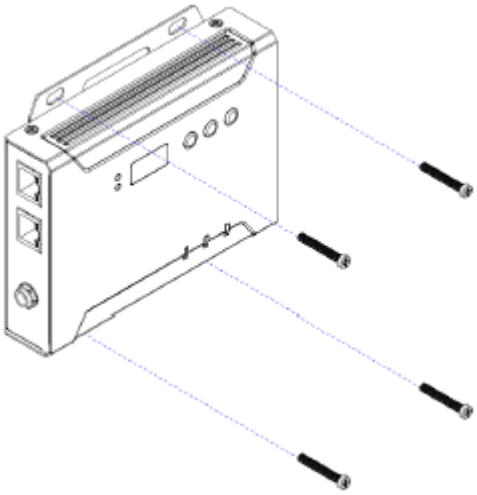


No.	名称	説明
1	Tx/Rx LED	表示されているIDがトランスミッターとレシーバーのどちらであるかをLEDの点灯で示します。
2	ID表示パネル	パネルコントロールがTxに切り替えられている場合はトランスミッターのIDが、それ以外はそのユニット自体のID番号が、それぞれ表示されます。
3	Prev(+)/Next(-)ボタン	◆ VE8900/VE8950/VE8952のデバイスにIDを割り当てます。 ◆ レシーバーに対してソース映像（トランスミッター）を割り当てます。
4	Tx/Rx切替ボタン	このボタンを押すと、レシーバーとそのレシーバーに対応したトランスミッターとの間で制御を切り替えます。
5	HDMI出力LED	オレンジ色に点灯すると、ビデオ出力が安定していることを示します。詳細はp.31「状態LED」を参照してください。
6	リンクLED	オレンジ色に点灯すると、LANポート1がイーサネットスイッチに接続していることを表します。詳細はp.31「状態LED」を参照してください。
7	電源ジャック	DC 電源アダプターを接続すると、ユニットに電源を供給します。詳細はp.31「状態LED」を参照してください。

VE8900/VE8950/VE8952 のマウント

壁へのマウント

製品本体に一体化しているブラケットをネジで固定するか、この部分を突起物に引っかけるかして、製品本体を壁にマウントしてください。



ラックマウント

VE8900/VE8950/VE8952 をラックにマウントする場合は、ラックマウントキット「VE-RMK1U」をお使いください。このオプション品に関する詳細は、下記のサイトにアクセスして、ご確認ください。

https://www.aten.com/jp/ja/products/

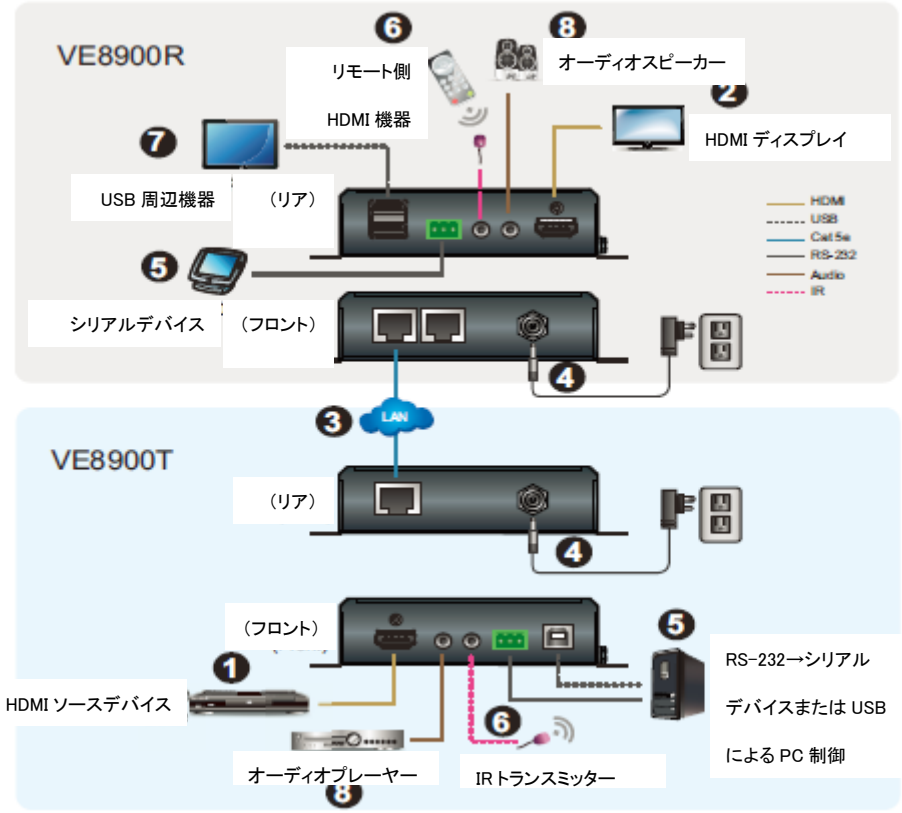
注意：	ブラケットを壁面やラックに取り付ける際に必要となるネジは、製品パッケージに同梱されていません。マウント用のネジは、お手数ですが、お使いの環境に適したものを別途ご用意ください。

VE8900/VE8950 の接続

下記の手順に従って、お使いの VE8900/VE8950 を必要な機器に接続してください。

注意：

- ◆ LED 表示は、接続や信号伝送の状態把握に役立ちます。詳細は、p.31「状態 LED」を参照してください。
- ◆ 本製品と互換性のある ATEN 製品の一覧は、Web ブラウザから下記 URL にアクセスして確認してください。
  https://www.aten.com/jp/ja/



1. VE8900T/VE8950T の HDMI 入力ポートとビデオソースの HDMI 出力ポートを、HDMI ケーブルで接続してください。

2. VE8900R/VE8950R の HDMI 出力ポートとディスプレイの HDMI 入力ポートを、HDMI ケーブルで接続してください。

3. セットアップの種類に応じて、VE8900T/VE8950T と VE8900R/VE8950R を同一の LAN に接続してください。
   - ◆ 1 対 1 の機器構成でセットアップする場合：VE8900T/VE8950T の LAN ポートと VE8900R/VE8950R の LAN1 ポートを RJ-45 ケーブルで直接接続してください。
   - ◆ 分配器として、またはマトリックス状にセットアップする場合： VE8900T/VE8950T の LAN ポートと VE8900R/VE8950R の LAN1 ポートを RJ-45 ケーブルで同一のイーサネットスイッチに接続してください。

4. VE8900T/VE8950T と VE8900R/VE8950R の電源ジャックに、それぞれ電源アダプターを接続してください。

5. （オプション）RS-232 シリアル機器または周辺機器を、VE8900R/VE8950R の RS-232 シリアルポートに接続してください。ここには、コンピューター、タッチパネル、バーコードスキャナー、制御システム※1 を接続することができます。

6. （オプション）IR トランスミッター/レシーバーのケーブル部分を、VE8900T/VE8950T および VE8900R/VE8950R の双方向 IR ポートにそれぞれ接続してください※1。

7. （オプション）USB 周辺機器を、VE8900T/VE8950T の USB Type-B ポート、および VE8900R/VE8950R の USB Type-A ポートにそれぞれ接続してください※1、2。

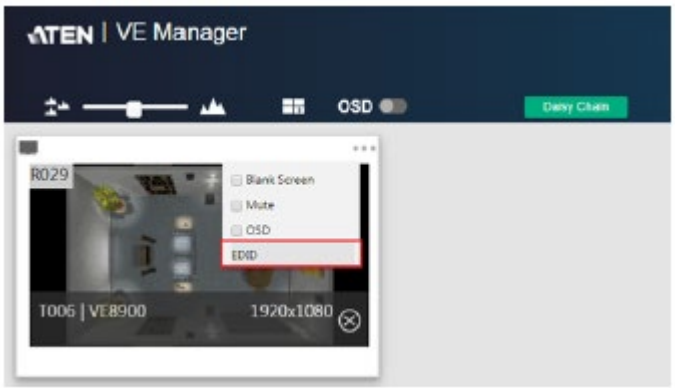
8. （オプション）VE8900R/VE8950R のオーディオジャックにオーディオデバイスを接続してください※3。

注意：
1. IR、RS-232、USB の各信号伝送は、デフォルトではいずれも無効に設定されています。これらの機能を有効にするには、VE マネジャーにおける、「System Settings」（システム設定）＞「Receiver」（レシーバー）＞「IR/RS232」または「USB」の項目で、信号の種類を選択してください。
2. VE8900/VE8950 の各トランスミッターは、VE8900/VE8950 レシーバーに搭載された合計 4 台の USB タッチスクリーンで制御することが可能です。

（表は次のページに続きます）

注意：（続き）

3. トランスミッターVE8900T/VE8950T で HDMI オーディオを受信するには、VE マネジャーで次の設定を必ず行ってください。
   - HDMI オーディオを受信できるよう、トランスミッターの設定を行ってください。
   - VE マネジャーにおける、「System Settings」（システム設定）＞「Transmitter」（トランスミッター）＞「Audio In」（オーディオ入力）の項目で、値を「HDMI」に変更してください。
   - レシーバーVE8900R/VE8950R で 5.1ch または 7.1ch サラウンドサウンドオーディオを有効にするには、次の設定を行ってください。
     a) VE マネジャーにおける、「System Settings」（システム設定）＞「Transmitter」（トランスミッター）の項目で、対応トランスミッターの設定画面にアクセスし、EDID を「Manual」（手動）に変更してください。
     b) VE マネジャーのプレビュー部分で「…」アイコンをクリックしたら、レシーバーの EDID をトランスミッターに伝送できるよう、EDID を選択してください。

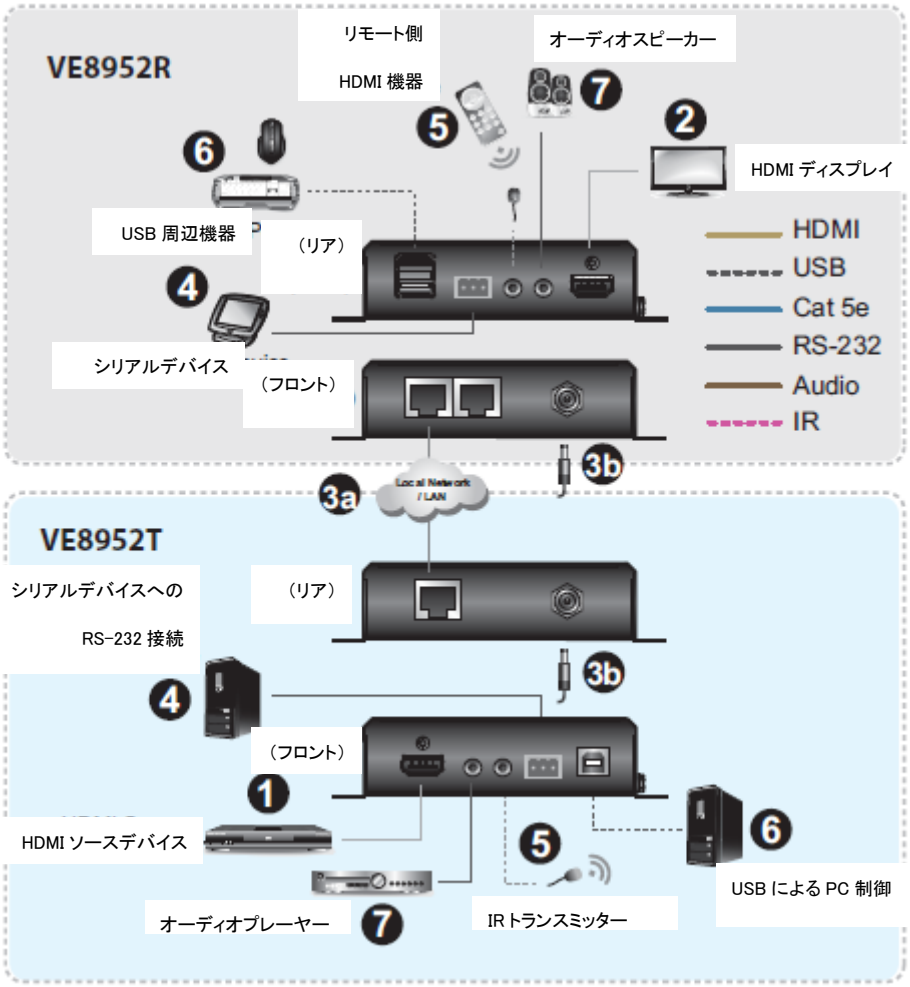


VE8952 の接続

下記の手順に従って、お使いの VE8952 を必要な機器に接続してください。

注意：

- ◆ LED 表示は、接続や信号伝送の状態把握に役立ちます。詳細は、p.31「状態 LED」を参照してください。
- ◆ 本製品と互換性のある ATEN 製品の一覧は、Web ブラウザから下記 URL にアクセスして確認してください。
  https://www.aten.com/jp/ja/



1. VE8952T の HDMI 入力ポートとビデオソースの HDMI 出力ポートを、HDMI ケーブルで接続してください。

2. VE8952R の HDMI 出力ポートとディスプレイの HDMI 入力ポートを、HDMI ケーブルで接続してください。
3. 次の手順に従って VE8952 のユニットをセットアップしてください。図は 1 対 1 でセットアップした機器構成を表しています。

   1 対 1 の機器構成でセットアップする場合

   a) VE8952T の LAN ポートと VE8952R の LAN1 ポートをイーサネットケーブルで接続してください。
   b) VE8952T と VE8952R の電源ジャックに対して、それぞれ電源アダプターを接続してください。

   多対多の機器構成でセットアップする場合

   a) VE8952T の LAN ポートと VE8950R の LAN1 ポートをそれぞれイーサネットケーブルでイーサネットスイッチに接続することで、同一 LAN へと接続してください。
   b) VE8952 は、PoE 対応のイーサネットスイッチに接続すると、イーサネットケーブル経由で給電することができます。PoE 機能を使用しない場合は、VE8952T と VE8952R の電源ジャックに対して、それぞれ電源アダプターを接続してください。

   注意： 製品本体に対して、電源アダプターとイーサネットケーブル（PoE）の両方から給電が可能な場合は、電源アダプターからの給電が優先されます。

4. （オプション）RS-232 信号をバイパスする場合は、コンピューターまたは制御システムを、VE8952 の RS-232 シリアルポートに接続してください。

5. （オプション）IR 信号をバイパスする場合は、IR レシーバーのケーブル部分を、VE8952T/VE8952R の双方向 IR ポートに接続してください。トランスミッターとレシーバーのどちらに接続するかは、リモートコントローラーと IR トランスミッターをどこから操作するかによって決まります。

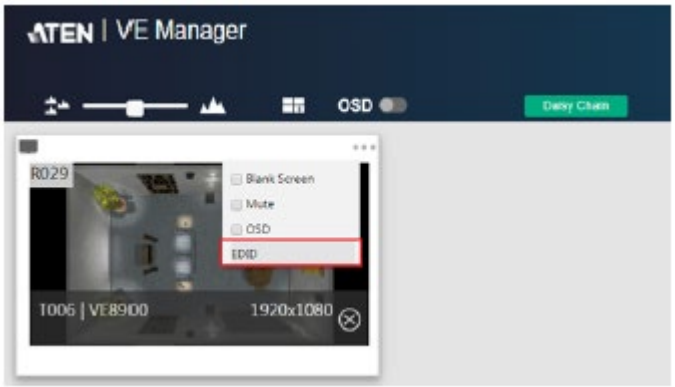
6. （オプション）キーボードやマウスを使用するには、これらのデバイスを、VE8952R の USB Type-A ポートに接続し、コンピューターを VE8952T の USB Type-B ポートに接続してください。

7. （オプション）オーディオデバイスを、VE8952T のオーディオ入力ポートと VE8952R のオーディオ出力ポートに接続してください。

注意：

1. IR、RS-232、USB の各信号伝送は、デフォルトではいずれも無効に設定されています。これらの機能を有効にするには、VE マネジャーにおける、「System Settings」（システム設定）＞「Receiver」（レシーバー）＞「IR/RS232」または「USB」の項目で、信号の種類を選択してください。
2. VE8952 の各トランスミッターは、VE8952 レシーバーに搭載された合計 4 台の USB タッチスクリーンで制御することが可能です。
3. トランスミッターVE8952T で HDMI オーディオを受信するには、VE マネジャーで次の設定を必ず行ってください。
   - HDMI オーディオを受信できるよう、トランスミッターの設定を行ってください。

     VE マネジャーにおける、「System Settings」（システム設定）＞「Transmitter」（トランスミッター）＞「Audio In」（オーディオ入力）の項目で、値を「HDMI」に変更してください。
   - レシーバーVE8952R で 5.1ch または 7.1ch サラウンドサウンドオーディオを有効にするには、次の設定を行ってください。
     a) VE マネジャーにおける、「System Settings」（システム設定）＞「Transmitter」（トランスミッター）の項目で、対応トランスミッターの設定画面にアクセスし、EDID を「Manual」（手動）に変更してください。
     b) VE マネジャーのプレビュー部分で「…」アイコンをクリックしたら、レシーバーの EDID をトランスミッターに伝送できるよう、EDID を選択してください。



第 3 章
パネル操作

概要

本章では、パネル LED の仕様、およびパネルボタンを使って VE8900/VE8950/VE8952 を操作する方法について説明します。

状態 LED

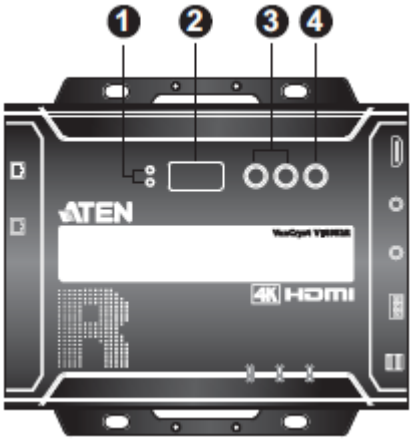
VE8900/VE8950/VE8952 は、トランスミッター、レシーバーともに、フロントパネルに操作状況と電源状況を示す LED ランプが付いています。

LED	表示	説明
電源	グリーンに点灯	本体の電源が ON
	OFF	本体の電源が OFF
リンク	オレンジに点灯	LAN に接続中
	OFF	LAN に未接続
HDMI 出力	オレンジに点灯	ビデオ出力が安定
	オレンジに点滅	ビデオ出力が不安定
	OFF	ビデオ出力が未伝送
RJ-45 コネクター（左側の LED）	オレンジに点灯	データが 100Mbps の速度で伝送中
	グリーンに点灯	データが 1Gbps の速度で伝送中
RJ-45 コネクター（左側の LED）	グリーンに点灯	LAN に接続しているものの、データ伝送なし
	グリーンに点滅	LAN に接続してデータ伝送中

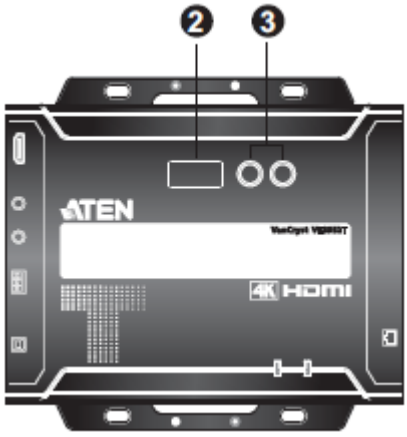
注意： HDMI 出力 LED は、レシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R でのみ利用可能です。

パネル各部名称

VE8900/VE8950



VE8900/VE8950 レシーバー



VE8900/VE8950 トランスミッター

注意： 上図で使用されているユニットの外観は VE8900/VE8950 のものですが、VE8952 のパネルもこれらの製品と同様です。

No.	名称	説明
1	Tx/Rx LED	表示されている ID 番号が Tx と Rx のどちらであるかを表します。

（表は次のページに続きます）

No.	名称	説明
2	ID 番号	◆ トランスミッター側:ID 番号を表示します。 ◆ レシーバー側: ➢ 通常、レシーバーの ID 番号を表示します。パネル操作が Tx に切り替えられている場合はトランスミッターの ID 番号を表示します。 ➢ ID 番号が 3 桁を超える場合は、最初の 2 桁を置き換えるのに、A、b、c、d、E、F の文字が使用されます。 A = 10 A00～A99 は 1000～1099 の ID 番号を表します。 b = 11 b00～b99 は 1100～1199 の ID 番号を表します。 c = 12 c00～c99 は 1200～1299 の ID 番号を表します。 d = 13 d00～d99 は 1300～1399 の ID 番号を表します。 E = 14 E00～E99 は 1400～1499 の ID 番号を表します。 F = 15 F00～F99 は 1500～1599 の ID 番号を表します。 ◆ ID 番号が点滅している場合、別の VE8900/VE8950/VE8952 によって使用されていることを表しています。
3	Up(+) / Down(−) ボタン	◆ VE8900/VE8950/VE8952 に ID 番号を割り当てます。 ◆ レシーバーに対してソースビデオ(トランスミッター)を割り当てます。
4	Tx/Rx 切替ボタン	このボタンを押すと、レシーバーと対応トランスミッターの間で操作を切り替えます。

注意:
◆ VE8900/VE8950/VE8952 はアイドル状態が 1 分続くと、パネルを自動的にロックします。パネルのロックを解除するには、「Down(−)」ボタンを 3 秒間長押ししてください。ロック設定については、p.68「全般設定」をご確認ください。
◆ Tx/Rx LED および Tx/Rx 切替ボタンは、レシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R でのみ利用可能です。

デバイスパネルを使ったソースの割り当て方法

1. お使いのレシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R それぞれに対して、ID 番号を割り当ててください。
   a) VE8900R/VE8950R/VE8952R で、制御が Rx に切り替えられていることを確認してください。この場合、Rx の LED が点灯状態になっています。もし、この LED が点灯していない場合は、Tx/Rx 切替ボタンで制御を切り替えてください。
   b) Prev(+)ボタンや Next(−)ボタンを使って、レシーバーに ID 番号を割り当ててください。
   c) 複数のレシーバーをお使いの場合は、レシーバーそれぞれに対して上記の手順 1−a と 1−b を繰り返し、ID 番号を割り当ててください。

2. マトリックス状の機器構成で使用している場合は、お使いのトランスミッター VE8900T/VE8950T/VE8952T それぞれに対して、ID 番号を割り当ててください。
   a) VE8900T/VE8950T/VE8952T で、Prev((+)ボタンや Next(−)ボタンを使って、トランスミッターに ID 番号を割り当ててください。
   b) 複数のトランスミッターをお使いの場合は、トランスミッターそれぞれに対して上記の手順 2−a を繰り返し、ID 番号を割り当ててください。

3. お使いの VE8900R/VE8950R/VE8952R に対してソースを割り当ててください。
   a) VE8900R/VE8950R/VE8952R で、Tx/Rx 切替ボタンを使って、制御を Tx に切り替えてください。この場合、Tx の LED が点灯状態になります。
   b) Prev(+)ボタンや Next(−)ボタンを使って、レシーバーにソースを割り当ててください。
   c) レシーバーそれぞれに対して、上記の手順 3−a と 3−b を繰り返してください。

第 4 章
管理

概要

ATEN Video over IP エクステンダーVE8900/VE8950/VE8952 は、本体に組み込まれた ATEN VE マネジャーというプログラムを使ってリモートから統合管理することができます。このプログラムは Web ブラウザ経由でアクセスされ、統合プラットフォームとして下記の機能を提供します。任意の VE8900/VE8950/VE8952 にアクセスし、設定することで同ネットワークセグメント内のデバイス全体に一括で設定を反映させることができます。

特長	詳細
トランスミッターとレシーバーの設定を定義	p.70「トランスミッターの設定」、p.72「レシーバーの設定」を参照してください。
トランスミッターとレシーバーの状態を監視	p.67「VE8900/VE8950/VE8952 の状態確認」を参照してください。
表示テンプレートを作成	p.53「ビデオウォールのレイアウト作成」を参照してください。

ログイン IP アドレスの検索

IP インストーラーユーティリティーをダウンロードするには、下記の手順に従って操作し、ユーティリティーを使って、お使いのトランスミッターVE8900T/VE8950T/VE8952T の IP アドレスを検索してください。

1. 弊社 Web サイト(https://www.aten.com/jp/ja/)における VE8900T/VE8950T/VE8952T の製品ページから IP インストーラーユーティリティーをダウンロードしてください。
   ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポート情報」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポート情報」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。

2. ダウンロードした IP インストーラーのファイルを解凍し、その中にあるプログラムを実行してください。そうすると、「Network Device IP Installer」(ネットワークデバイスの IP インストーラー)の画面が表示されます。

3. 「Enumerate」(一覧表示)をクリックして、ネットワーク上にある ATEN デバイスを検索してください。検出されたデバイスはデバイス一覧に表示されます。

4. 任意の VE8900T/VE8950T/VE8952T の IP アドレスを使って、VE マネジャーにログインしてください。

OSD からログイン IP アドレスを確認するには

IP アドレスを確認するには、上記の方法以外に、レシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R に接続された HDMI モニターを使用する方法もあります。詳細は、p.25「VE8900/VE8950 の接続」および p.28「VE8952 の接続」の各セクションにおける接続図を参照してください。

Find My VE の拡張機能

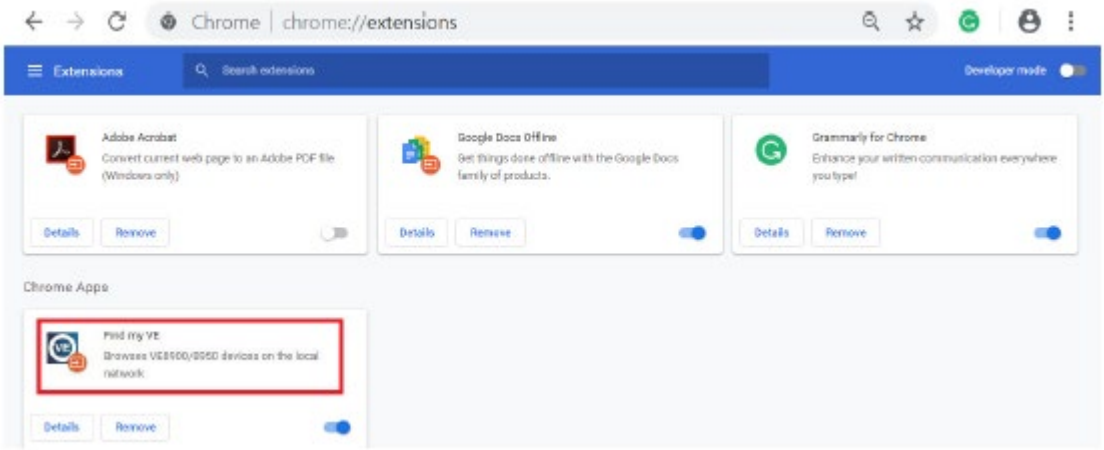
VE8900/VE8950/VE8952 では「Find My VE」と呼ばれる拡張機能を提供しています。これは、Chrome ブラウザで VE マネジャーのログイン画面に簡単にアクセスできるようにするための機能です。

1. 拡張機能を利用する場合は、弊社 Web サイト（https://www.aten.com/jp/ja/）における VE8900/VE8950/VE8952 の製品ページからダウンロードしてください。
   ダウンロードは、1）製品ページ内の「サポート情報」メニューからアクセス、または、2）ホームページのトップページの右上に表示される（表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される）「サポート情報」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。

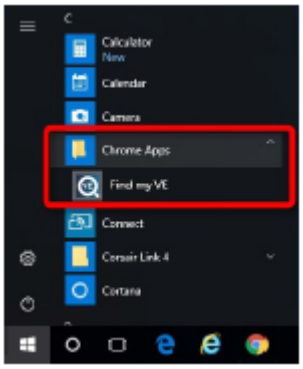
2. 画面をスクロールし、下の方にある「ソフトウェアとドライバー」セクションから、「Find My VE」の zip ファイルをクリックしてダウンロードしてください。

3. ダウンロードしたファイルを解凍し、VE ブラウザを Chrome で実行してください。

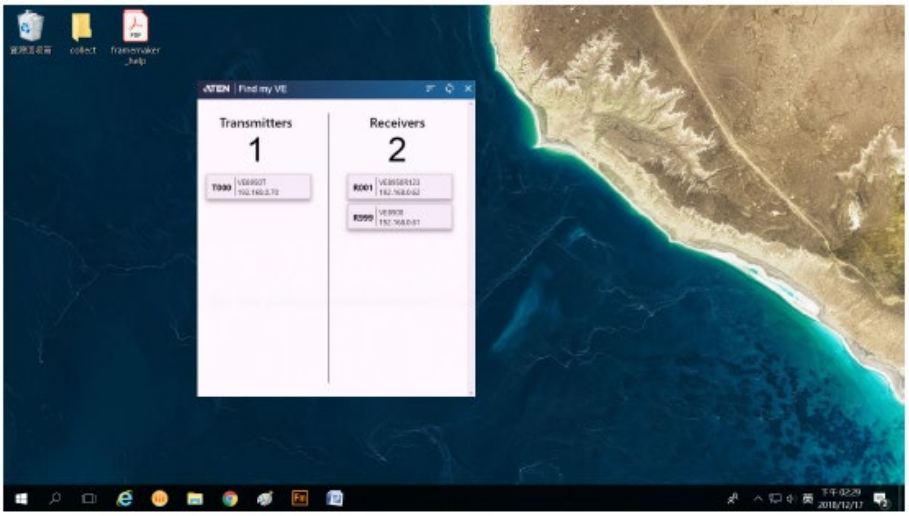
4. 拡張機能をインストールすると、下図の例のように Chrome の拡張機能の画面に「Find My VE」が追加されます。



インストールすると、下図のようにスタートメニューから拡張機能が利用できるようになります。



拡張機能をクリックすると、下図のようなウィンドウが表示されます。



また、ウィンドウには、ネットワークにおけるユニットすべてが一覧で表示されます。

右上にある アイコンをクリックすると、一覧を最新の状態に更新します。

右側にあるスクロールバーを使うと、一覧表示をスクロールします。

右上にある アイコンをクリックすると、一覧の表示順を変更します。このアイコンをクリックすると、「By Name」(名前順)、「By Id」(ID 順)、「By IP」(IP 順)の順番で切替を行います。また、表示順として選択されている項目は太字で表示されます。例えば、上図の例を見ると、デバイス ID が太字で表示されているため、表示順として「By ID」(ID 順)が選択されていることになります。

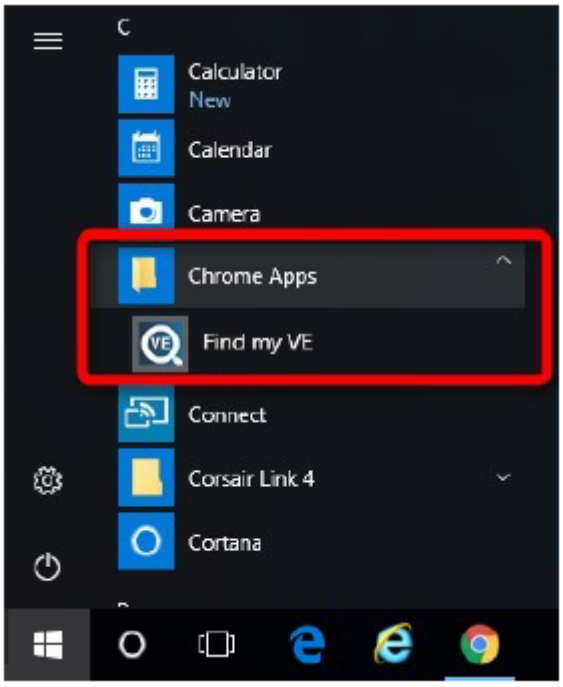
表示されているデバイスのバーをクリックすると、VE マネジャーを開きます。

「Close」(閉じる)をクリックすると、VE マネジャーのアプリケーションを終了します。

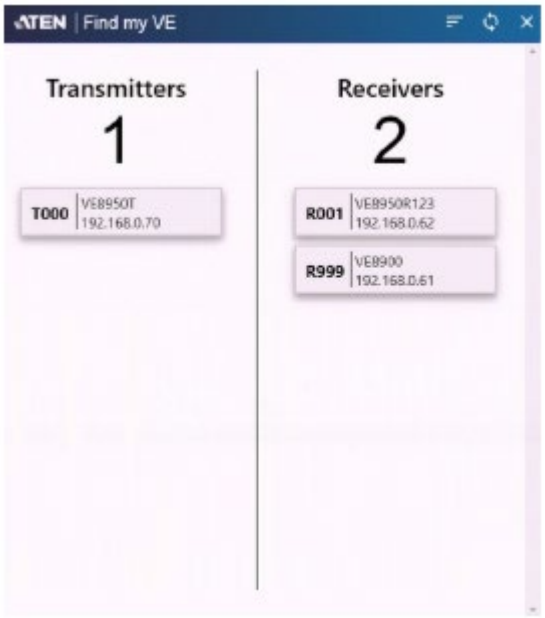
Find My VE 拡張機能を使った VE マネジャーの起動

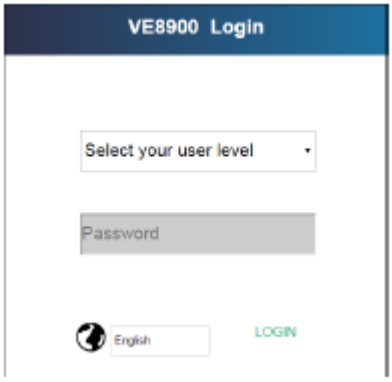
拡張機能「Find My VE」を使うと、VE マネジャーを直接起動することができます。この方法で操作するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. Windows のスタートメニューから、「Find My VE」をクリックして選択してください。



2. 「Find My VE」ウィンドウで、表示されているデバイスのバーをクリックしてください。そうすると、VE マネジャーのログイン画面にアクセスします。



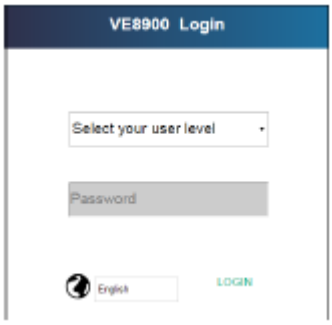


ログイン方法については、p.42「VE マネジャーへのログインと設定」を参照してください。

VE マネジャーへのログインと設定

Web アクセスに使うコンピューターから、下記の手順に従って VE マネジャーにログインしてください。

1. Web ブラウザを開いたら、IP インストーラーユーティリティーを使って取得した IP アドレスを URL バーに入力して、アクセスしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



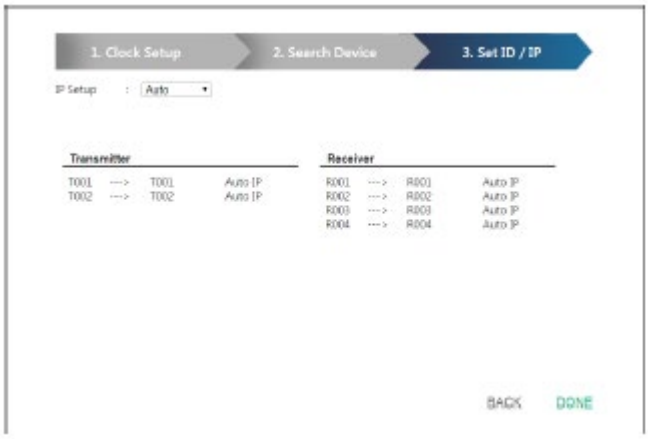
2. ユーザーレベルのドロップダウンメニューで「Administrator」を選択し、パスワード欄に「password」と入力してください（工場出荷設定）。初回ログインの場合は、下図のような画面が表示されます。

注意： アドミニストレーターとして初めてログインする場合は、デフォルトで設定されているパスワード（「password」に設定）を使用してください。セキュリティ上の理由から、このログインパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。新しいパスワードは、初回ログイン時に使用したパスワードとは異なるものを設定してください。

3. 下記にある、いずれかの方法で、VE マネジャーの日付と時刻を設定してください。
   - ◆ 現在の日付と時刻の設定を維持する場合は、「Keep current time」(現在時刻を維持する)の項目を選択してください。
   - ◆ VE マネジャーへのアクセスに使用している端末の日付と時刻の設定を適用する場合は、「Sync with computer time」(コンピューターの時刻と同期する)の項目を選択してください。
   - ◆ VE マネジャーの日付と時刻を個別に設定する場合は、日付と時刻を手入力で設定してください。この場合、日付は「YYYY/MM/DD」のフォーマットで入力してください。

4. 「NEXT」(次へ)をクリックすると、下図のような画面が表示されます。この設定ウィザードには、ネットワークで検出されたトランスミッターVE8900T/VE8950T/VE8952T とレシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R が一覧表示されます。

5. デバイスのIPアドレスを設定するには、一覧からデバイスを選択し、「Next」(次へ)をクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。

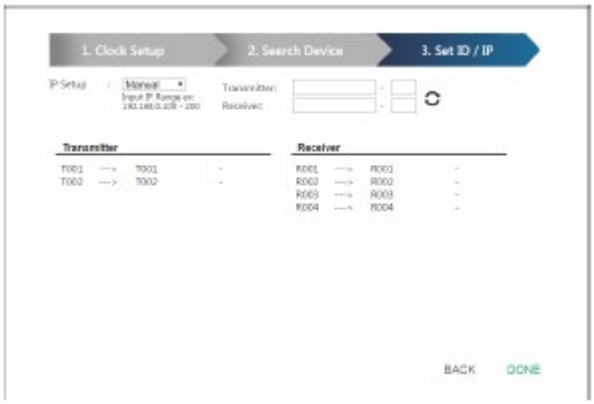


6. 「IP Setup」(IP 設定)のドロップダウンメニューをクリックし、管理対象となっている VE8900/VE8950/VE8952 デバイスに対して IP アドレスを割り当てる方法を選択してください。

- ◆ Auto(自動):このオプションを選択すると、IP アドレスは VE マネジャーによって自動的に割り当てられます。
- ◆ DHCP:このオプションを選択すると、IP アドレスは DHCP サーバーに別途アクセスし、アドレスを取得するようになります。
- ◆ Manual(手動):このオプションを選択すると、管理対象のビデオエクステンダーに対して手入力で IP アドレスの設定を行います。詳細については、下記の手順を参照してください。

7. IP アドレスを手入力で設定するには、下記の手順に従って操作を行ってください。

a) 「Set ID/IP」(ID/IP の設定)画面における「IP Setup」(IP 設定)の項目で、「Manual」(手動)を選択してください。そうすると、下図のような画面が表示されます。

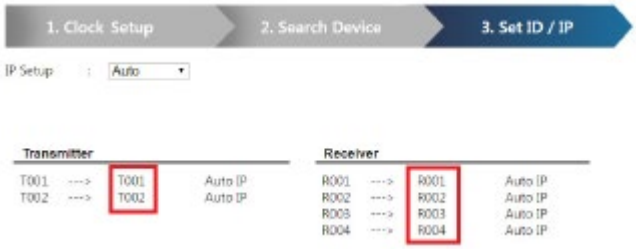


b) 「Transmitter」(トランスミッター)と「Receiver」(レシーバー)の各欄に、それぞれ有効な IP アドレスの範囲を入力してください。

c) 「Refresh」(再読込)をクリックして、IP アドレスの割り当てを開始してください。

d) IP アドレスの割り当てが完了すると、VE マネジャーに表示されます。

8. デバイスの ID を再設定する場合は、目的の VE8900/VE8950/VE8952 デバイスをクリックして、新しい ID を入力してください。



9. 「Done」(完了)をクリックしてください。そうすると、VE マネジャーのメイン画面が表示されます。

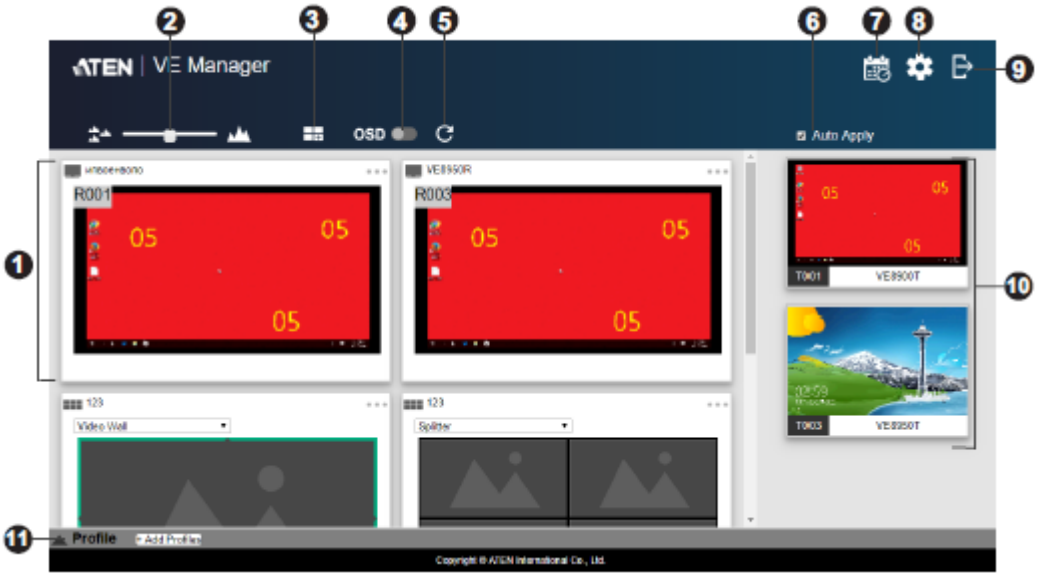
注意:

◆ セキュリティ上の理由から、初回ログイン時に使用したパスワードを変更することを推奨します。アカウントの設定に関する詳細は、p.81「アカウントの設定」を参照してください。

◆ これらの設定に再びアクセスするには、VE マネジャーのメイン画面で「 」をクリックしてから、「 」をクリックしてください。

メイン画面

VE マネジャーのメイン画面からは、下記のコントロールにアクセスすることができます。



No.	名称	説明
1	ビデオウォールおよびレシーバーのプレビュー	作成されたビデオウォールや個々のビデオレシーバー、およびデイジーチェーンのプレビューを表示します。 ◆ ビデオウォールのテンプレートの作成に関する詳細は、p.53「ビデオウォールのレイアウト作成」を参照してください。 ◆ プレビューにおけるコントロールに関する詳細は、p.57「プレビューの編集」を参照してください。
2	プレビューサイズ	スライダーバーをドラッグすると、プレビューウィンドウのサイズを調整します。
3	ビデオウォールの作成/編集	この部分をクリックすると、ビデオウォールテンプレートの作成または編集を行います。詳細は p.49「VE マネジャーを使ったソースの割り当て方法」を参照してください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
4	OSD	管理対象となっているビデオウォールで使用されているVE8900/VE8950/VE8952 デバイスのパネルコントロールを、全体で有効または無効に設定します。個々のビデオウォールに対してVE8900/VE8950/VE8952デバイスのパネルコントロールを有効または無効にするには、プレビューウィンドウのOSD 設定を使ってください。詳細については、p.57「プレビューの編集」における「Configuration Menu」（設定メニュー）を参照してください。
5	再読込	デイジーチェーン接続の状態を再読込/更新します。
6	Auto Apply （自動適用）	この項目にチェックを入れると、自動適用を有効にします。この場合、すべての設定がデバイスに対して自動的に適用されます。
7	プロファイル スケジュール	クリックすると、プロファイルのスケジューリング画面に遷移します。詳細は p.64「プロファイルのスケジュール設定」を参照してください。
8	システム設定	クリックすると、システム設定にアクセスします。システム設定には、全般設定、トランスミッターの設定、レシーバーの設定、ファームウェアアップグレード、設定のバックアップやリストア、アカウントの設定が含まれます。詳細については、第 5 章「システム設定」を参照してください。
9	ログアウト	クリックすると、VE マネジャーからログアウトします。
10	ソースリスト	表示ソースを一覧表示し、対応するトランスミッターで各ソースを特定します。
11	プロファイルバー	ビデオウォールを表示するビデオプロファイルです。詳細はp.59「プロファイル」を参照してください。

適用/自動適用

設定した設定内容を自動的に適用したい場合は、「Auto Apply」(自動適用)をクリックしてください。

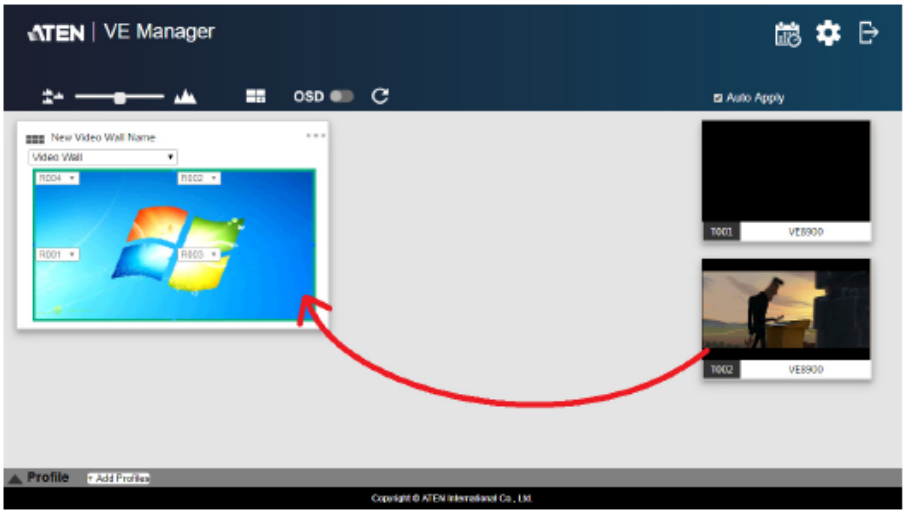
反対に、設定内容を確認した上で都度適用したい場合は、「Auto Apply」(自動適用)の項目からチェックを外し、「Apply」(適用)ボタンを使用してください。画面内で変更が行われると、このボタンは点灯状態になります。

VE マネジャーを使ったソースの割り当て方法

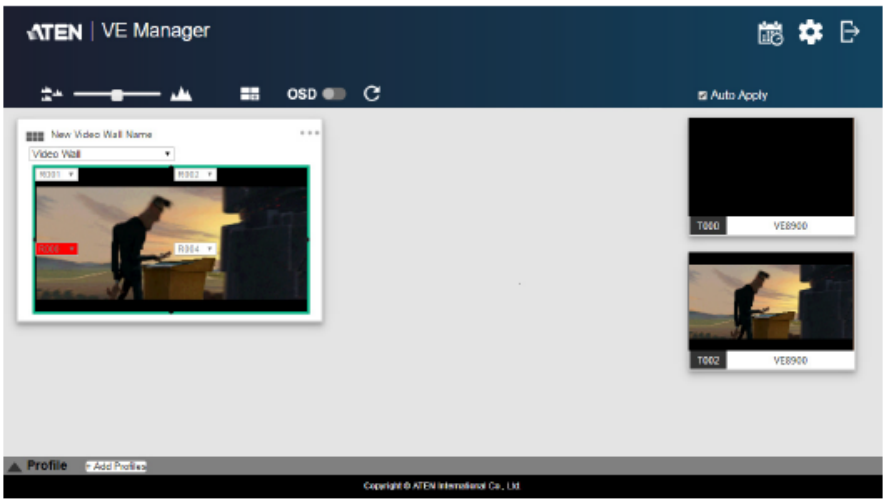
VE マネジャーを使ってソースを割り当てるには、下記の手順で操作を行ってください。

1. メイン画面で、割り当てたいソースをソースリストで指定し、ビデオウォール/レシーバーをプレビューしてください。

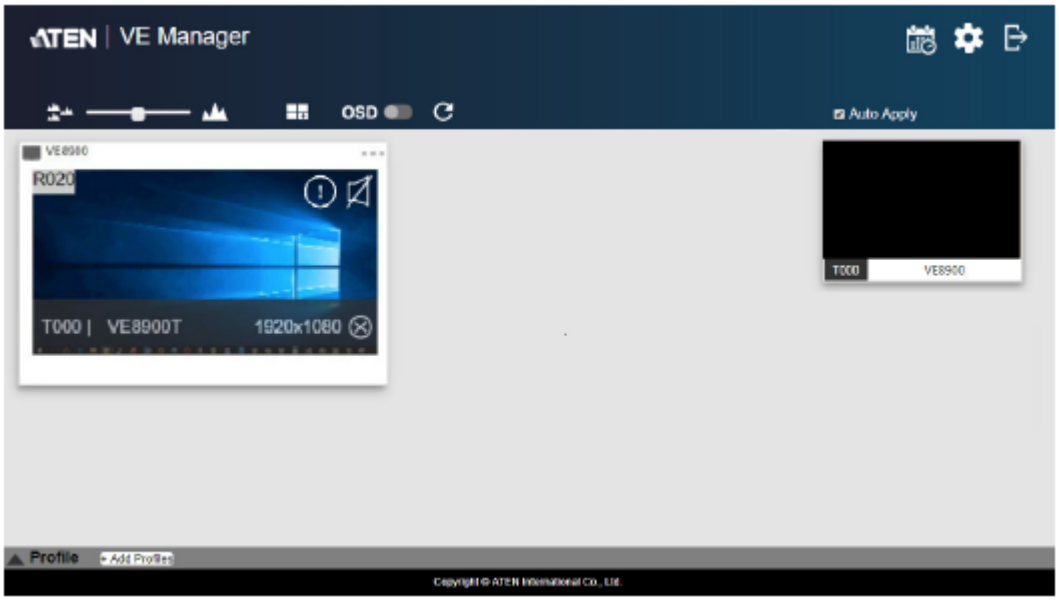
2. 選択したソースを、ビデオウォール/レシーバーのプレビューにドラッグしてください。



3. 接続されたレシーバーで表示上の問題が発生した場合は、そのレシーバーがプレビューウィンドウで赤色に表示されます。



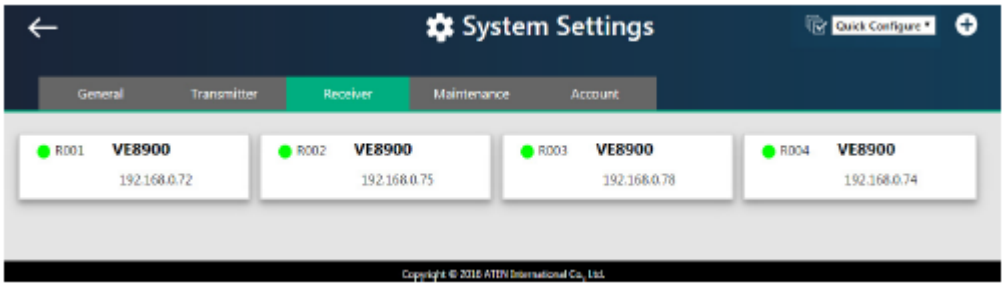
4. 単独で接続されているレシーバーで表示上の問題が発生した場合は、下図のようなプレビューが表示されます。



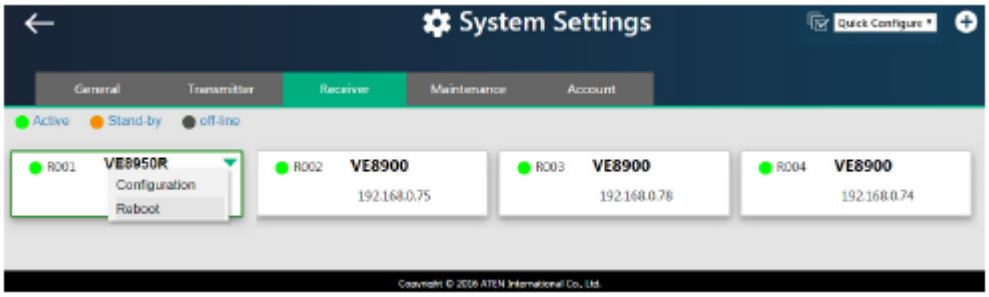
これ以外の方法としては、システム設定からソースを割り当てることもできます。その場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. メイン画面で「⚙」をクリックしてから、「Receiver」(レシーバー)タブをクリックしてください。

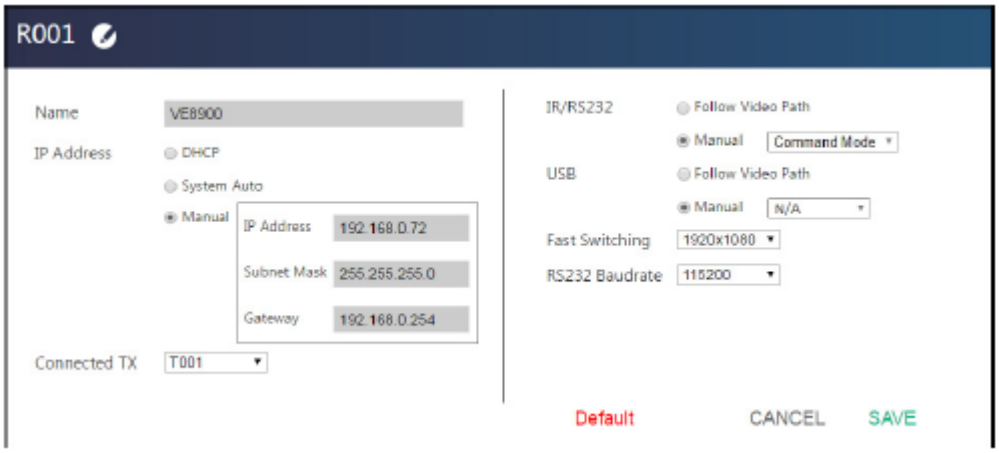
そうすると、管理されているレシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R が表示されます。



2. レシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R それぞれに対して、ソースを割り当ててください。
   a) レシーバーに対してカーソルを動かしてください。レシーバーのプレビュー画面の右上にグリーンの矢印が表示されます。
   b) そのグリーンの矢印をクリックすると、ドロップダウンメニューが表示されます。



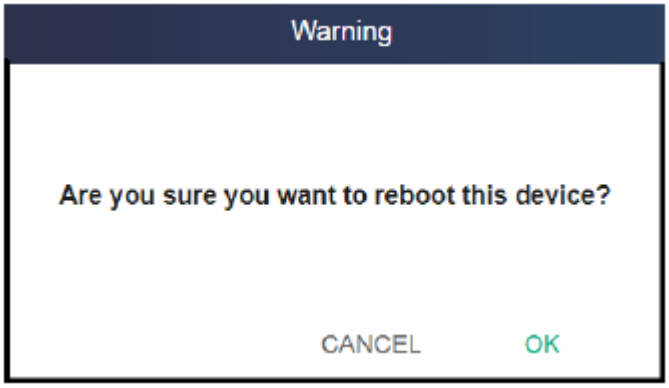
c) ドロップダウンメニューから、「Configuration」(構成)をクリックしてください。そうすると、下図のようなウィンドウが表示されます。



d) 「Connected Tx」(接続済の Tx)ドロップダウンメニューの矢印部分をクリックして、Tx ソースを選択してください。

e) レシーバーが複数ある場合は、手順 2-a～2-d を繰り返し、各々に対してソースの割り当てを行ってください。

f) VE8900/VE8950/VE8952 を再起動する場合は、手順 2-b で説明されているグリーンの矢印をクリックしてから、「Reboot」(再起動)をクリックしてください。そうすると、下図のような警告ウィンドウが表示されます。

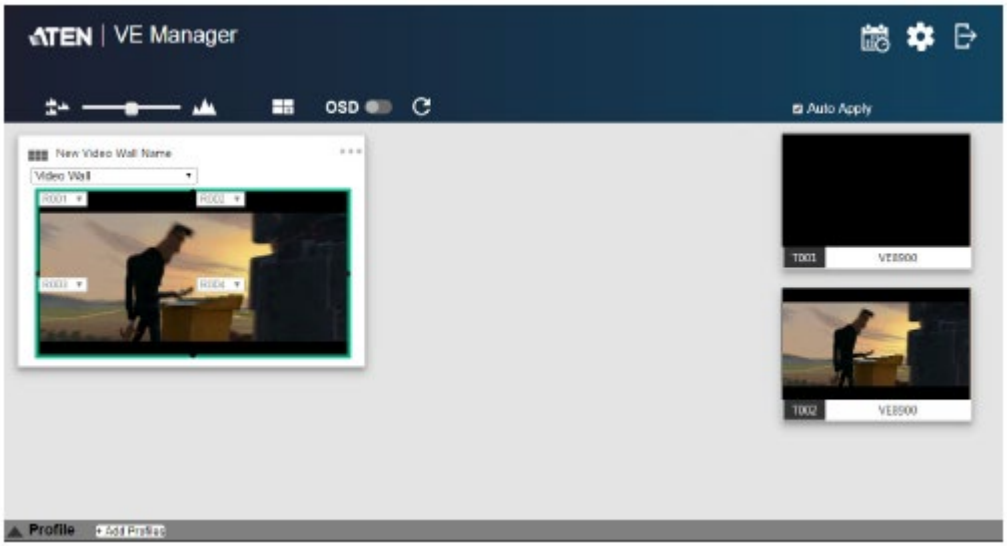


ビデオウォールの設定

ビデオウォールを設定するには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 用途に合ったビデオウォールのテンプレートが作成されていることを確認してください。この手順の詳細については、p.53「ビデオウォールレイアウトの作成」を参照してください。

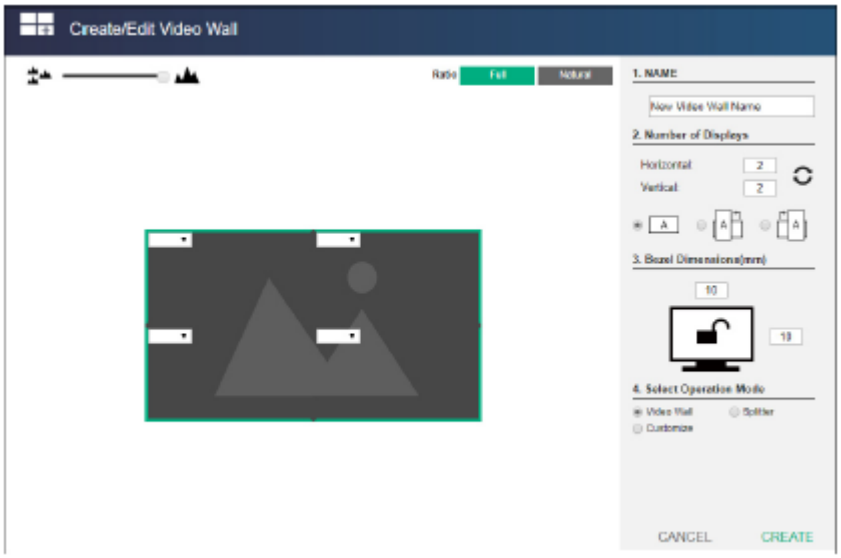
2. VE マネジャーのメイン画面で、ソースリストから入力ソースをドラッグしたら、作成済のビデオウォールレイアウトの上にドロップしてください。下図の例では、T002 の表示ソースがこのビデオウォールレイアウトに割り当てられており、1 系統のソースビデオを拡大して表示できるよう、R001～R004 の 4 台のモニターが使用されています。



注意： ビデオウォールの設定変更に関する詳細は、p.57「プレビューの編集」を参照してください。

ビデオウォールのレイアウト作成

1. 新規レイアウトを作成するには、メイン画面で「Create/Edit Video Wall」(ビデオウォールの作成/編集)をクリックしてください。そうすると、下図のような画面において、レイアウトのプレビューが中央に表示されます。



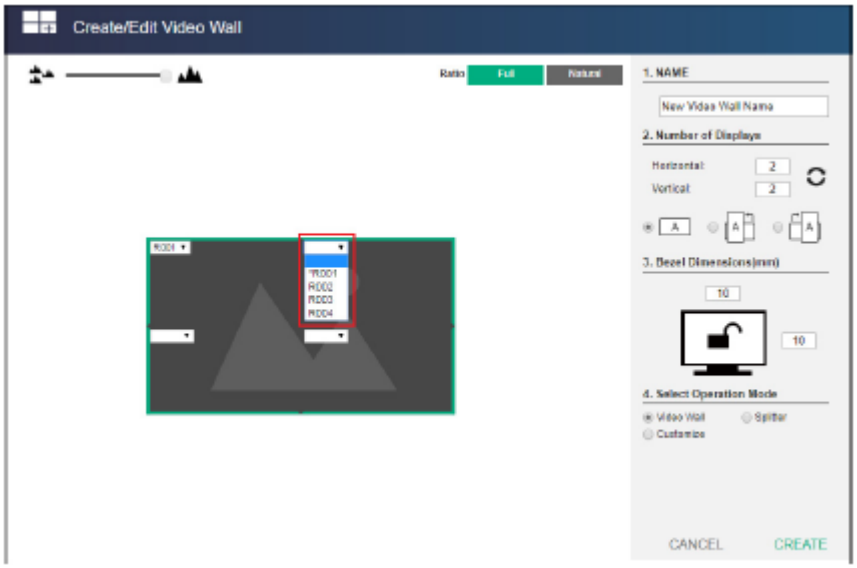
2. 必要に応じて、お使いのビデオウォールのレイアウトを設定してください。なお、レイアウトの外観はプレビューを参考にしてください。

項目	説明
Name (名前)	ビデオウォールに付ける名前を入力してください。
Number of Displays (ディスプレイ数)	次のパラメーターを定義してください。 ◆ 「Horizontal」(横)および「Vertical」(縦):ドロップダウンメニューをクリックして、お使いのビデオウォールのディスプレイ数を選択してください。「Refresh」(再読込)をクリックすると、設定が適用されたプレビューが表示されます。 ◆ 表示の向き:表示する向きを縦または横から選択してください。縦方向の表示は、横方向の表示から 90° 右回り、または 90° 左回りに回転させます。
Bezel Dimensions (モニターの額幅)	モニターフレームの上下および左右それぞれの額幅サイズを定義してください。上の値は上下の額幅サイズの合計、右の値は左右の額幅サイズの合計を、それぞれ表します。

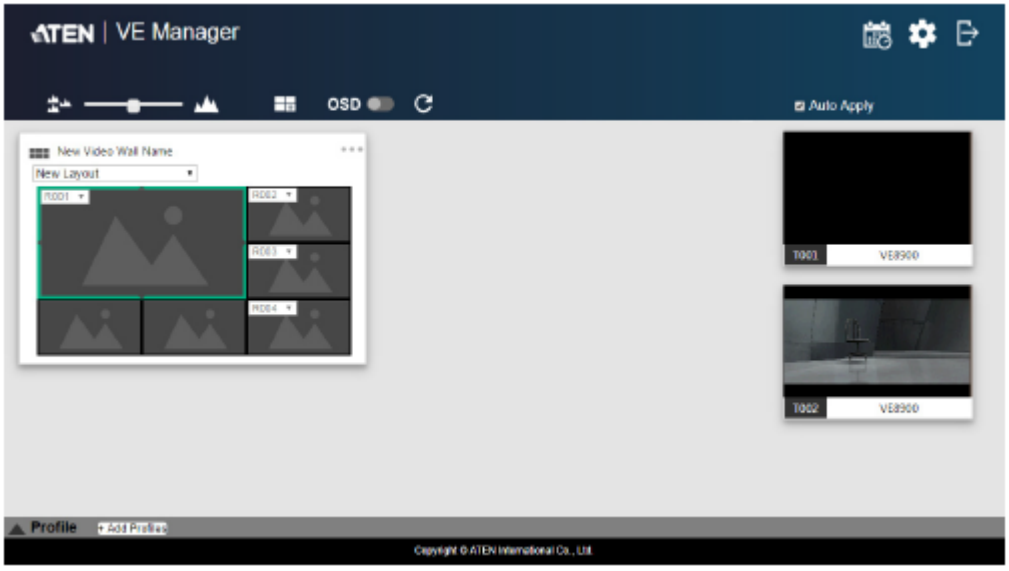
(表は次のページに続きます)

項目	説明
Operation Mode （操作モード）	お使いのビデオウォールに対して、操作モードを選択してください。 ◆ Video Wall（ビデオウォール）：このオプションを選択すると、ビデオウォールを設定します。 ◆ Splitter（スプリッター）：このオプションを選択すると、複数のモニター上で同一のコンテンツを表示するように設定します。 ◆ Customized（カスタマイズ）：このオプションを選択すると、カスタマイズされたディスプレイを作成します。このテンプレートの名前を変更するには、一覧にある「New layout」（新規レイアウト）をクリックしてください。
	スライダーバーの四角い部分を左右にスライドすることで、プレビューウィンドウの大きさを拡大したり縮小したりします。
	このボタンを使うと、複数のディスプレイを統合します。統合したいモニターをレイアウトプレビューから選択して、このボタンを押してください。
	このボタンを使うと、モニターの統合を解除します。統合されたモニターをレイアウトプレビューから選択し、このボタンを押してください。
Ratio Full Natural	Full（フル）：このオプションをクリックすると、最大に引き伸ばした状態でソースビデオを表示します。 Natural（ナチュラル）：このオプションをクリックすると、オリジナルのアスペクト比でソースビデオを表示します。

3. プレビュー部分でドロップダウンメニューをクリックして、各モニターの出力レシーバーを定義してください。選択済みのレシーバーや利用不可なレシーバーにはアスタリスク(*)が表示されます。

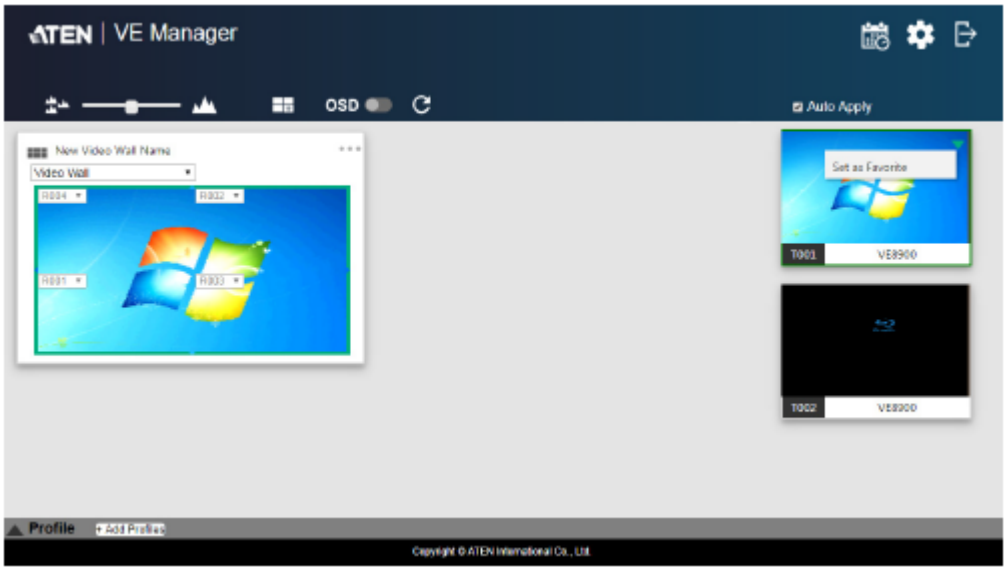


4. 「CREATE」(作成)をクリックしてください。そうすると、新規ビデオウォールのテンプレートが作成され、メイン画面に表示されます。



ビデオウォールのレイアウト編集

ビデオウォールのレイアウトを編集するには、VE マネジャーのメイン画面で編集対象となるレイアウトの右上をクリックして、「Edit」(編集)を選択してください。ビデオウォールの設定に関する詳細は、p.53「ビデオウォールのレイアウト作成」を参照してください。



プレビューの編集

ビデオウォールのレイアウトは、下記の設定を変更することができます。

No.	項目	説明
1	Operation Mode (操作モード)	ドロップダウンメニューをクリックして、操作モードを選択してください。
2	Assigned Receiver (割り当てられたレシーバー)	モニターに対して割り当てられたレシーバーを表示します。 Tip(チップ):統合されていないモニターに対して、モニターをダブルクリックすると、割り当てられたレシーバーの設定画面を開きます。
3	Configuration Menu (設定メニュー)	右上をクリックすると、次の項目にアクセスすることができます。 ◆ Blank(ブランク):このビデオウォールにおける表示を無効にします。 ◆ Mute(ミュート):このビデオウォールに対するオーディオ伝送を無効にします。 ◆ OSD:このビデオウォールに対する、すべてのVE8900/VE8950/VE8952 デバイスのパネル操作を有効または無効にします。

(表は次のページに続きます)

No.	項目	説明
3	Configuration Menu （設定メニュー） （続き）	◆ **Edit（編集）：**クリックすると、ビデオウォールのレイアウト設定にアクセスします。ビデオウォールの設定に関する詳細は、p.53「ビデオウォールのレイアウト作成」を参照してください。 ◆ **Delete（削除）：**クリックすると、VE マネジャーからレイアウトを削除します。レシーバーはオフラインの場合にのみ、このオプションをご利用いただけます。

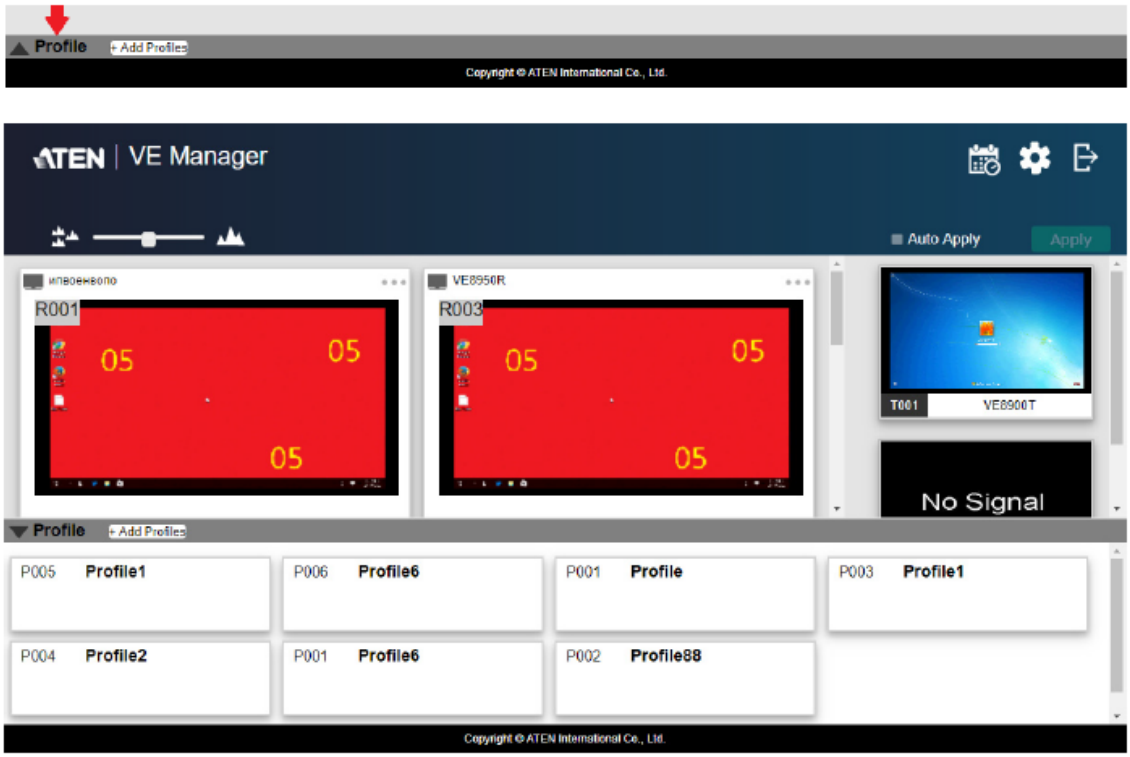
プロファイル

ビデオレシーバーやビデオウォールの設定を定義した後で、現在の設定を保存しておきたい場合は、プロファイルとして保存することができます。ここでは、様々な種類のプロファイルを作成して、手動で適用することができます。また、プロファイルスケジュールを設定し、日、週、月単位で実行時間を指定して、ビデオ表示を切り替えることもできます。

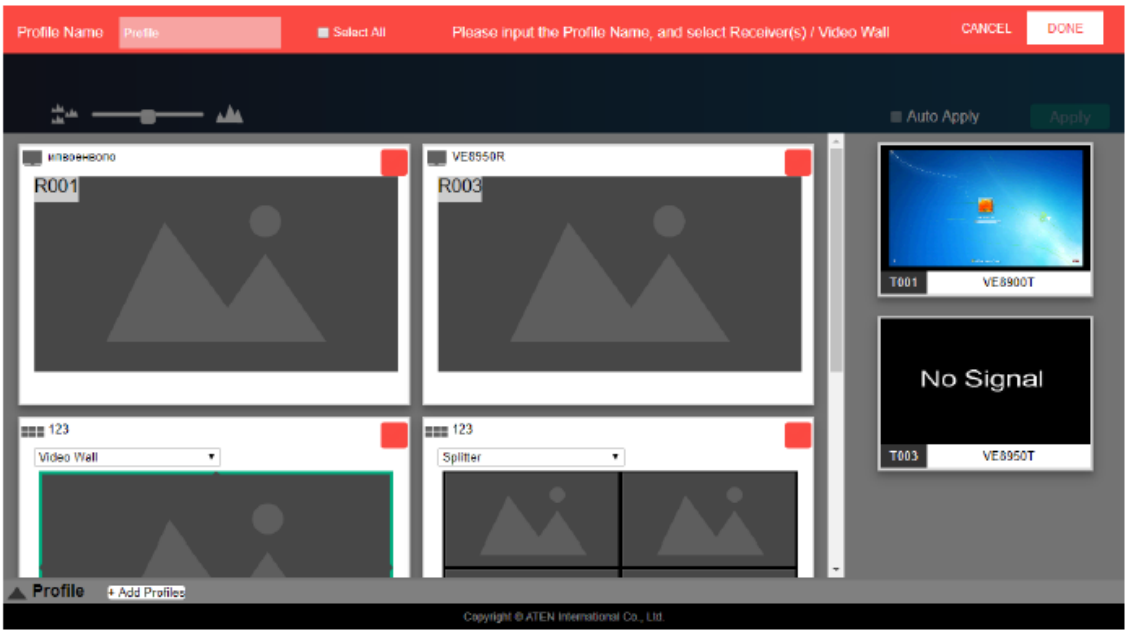
プロファイルの作成

プロファイルを作成するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. メイン画面で、プロファイルバーの「profile」(プロファイル)の横にある矢印をクリックしてください。そうすると、画面下部にプロファイル一覧が表示されます。



2.　画面下部にある「+ Add Profiles」(プロファイルの追加)をクリックしてください。



◆　Profile Name(プロファイル名):プロファイルの名前を入力してください。

◆　Receivers / Video Walls(レシーバー/ビデオウォール):オレンジのボックスをクリックして、このプロファイルに追加したいレシーバー/ビデオウォールを選択してください。また、「Select All」(すべて選択)のオプションにチェックを入れることで、すべてのレシーバー/ビデオウォールを選択することもできます。

3.　「DONE」(完了)をクリックして、設定内容を保存してください。

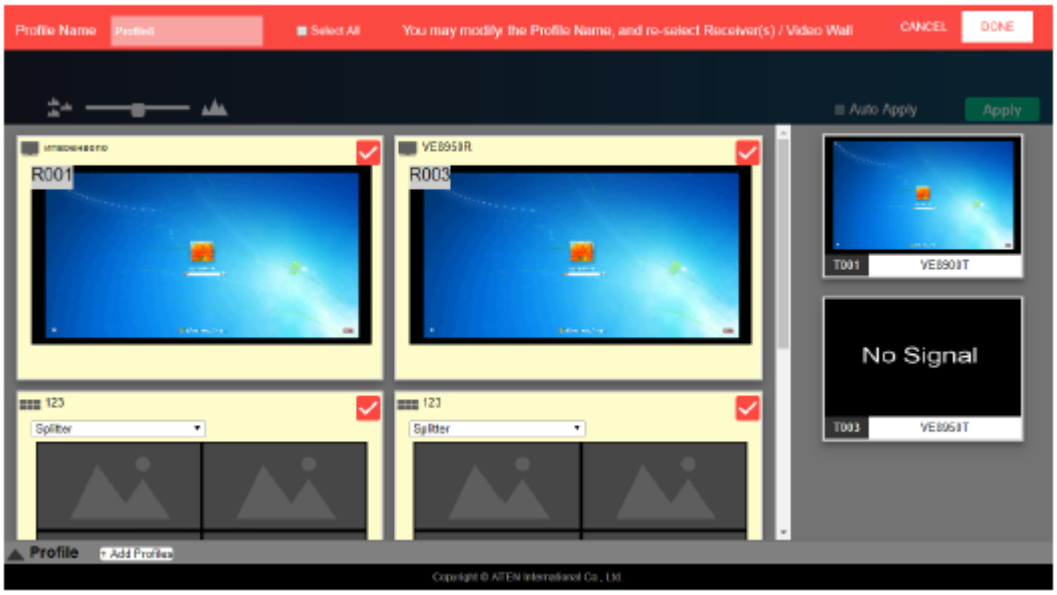
プロファイルの編集/削除/切断

プロファイル一覧では、プロファイルの編集/削除/切断を行うことができます。

選択対象となるプロファイルをクリックすると、グリーンの矢印が表示されますので、この矢印をクリックしてドロップダウンメニューを開き、編集/削除/切断のオプションを選択してください。

編集

プロファイルを編集するには、「Edit」(編集)オプションをクリックしてください。



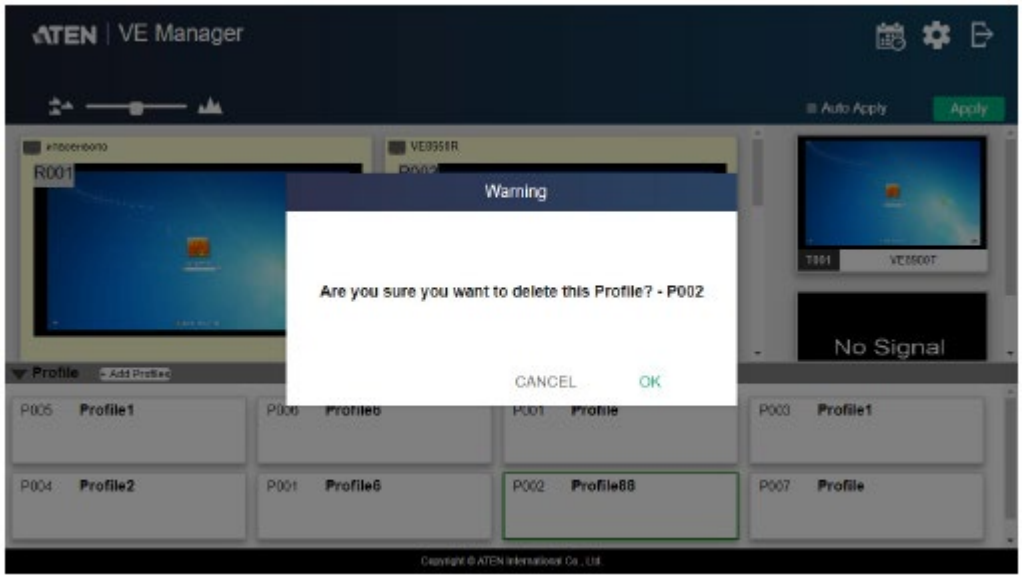
◆ Profile Name(プロファイル名):プロファイル名を編集してください。

◆ Receivers / Video Walls(レシーバー/ビデオウォール):オレンジのボックスをクリックして、このプロファイルに追加したいレシーバー/ビデオウォールを選択してください。また、「Select All」(すべて選択)のオプションにチェックを入れることで、すべてのレシーバー/ビデオウォールを選択または選択解除することもできます。

「DONE」(完了)をクリックすると、編集操作を終了します。

削除

プロファイルを削除するには、「Delete」（削除）オプションをクリックしてください。



そうすると、このプロファイルを削除してもよいか、システム側から確認が促されますので、削除する場合は「OK」を、キャンセルする場合は「CANCEL」（キャンセル）を、それぞれクリックしてください。

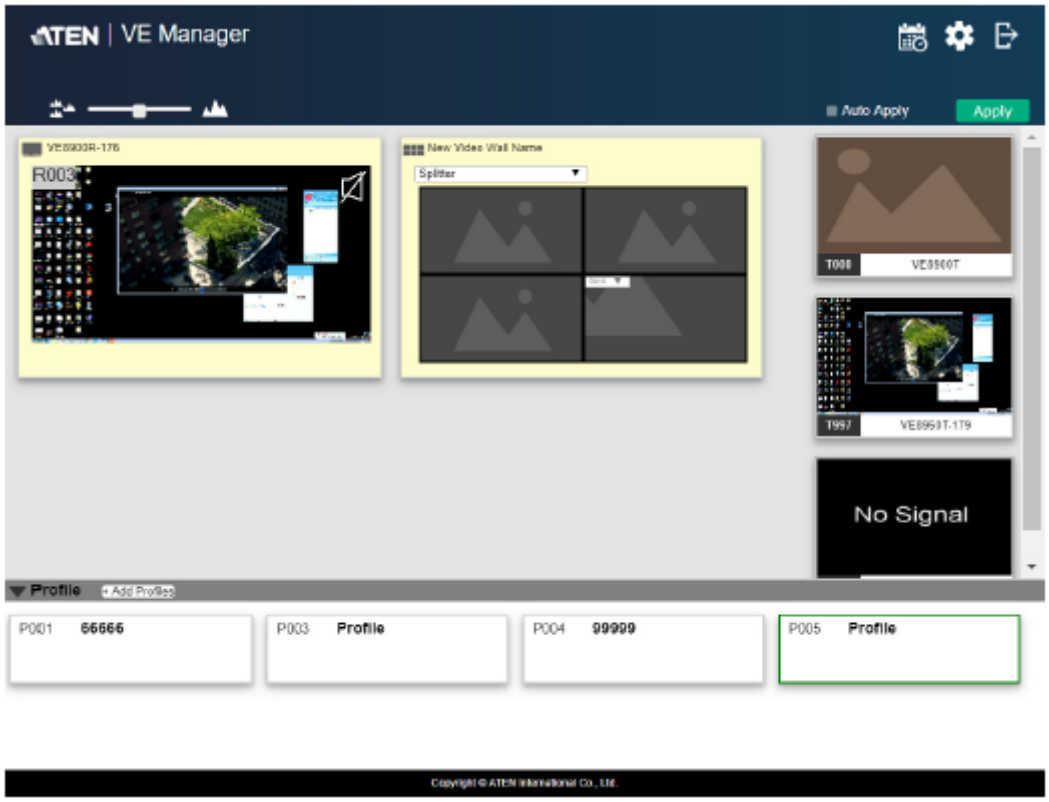
切断

ビデオウォールから現在のプロファイルを削除するには、「Disconnect」（切断）をクリックしてください。そうすると、ビデオウォールは空白の状態になります。

プロファイルの選択/適用

プロファイルを作成すると、プロファイルの設定をビデオディスプレイに適用することができます。設定を適用するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. プロファイル一覧を表示してください。
2. プロファイルを選択してください。そうすると、プレビューが表示されます。



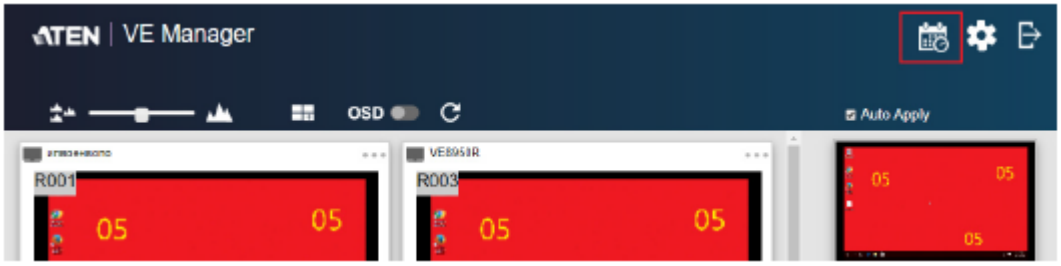
ここには、プロファイルで選択されたレシーバー/ビデオウォールが表示されます。背景が黄色のビデオレシーバー/ビデオウォールは、ビデオ設定が適用されていないことを示しています。また、背景がグレーのものは、そのビデオレシーバー/ビデオウォールが利用できないことを表しています。背景が白である場合は、設定がシステムに適用されていることを表しています。

3. 「Apply」(適用)をクリックして、プロファイルの設定を適用してください。
4. 適用されると、ビデオ設定がメイン画面に表示されます。

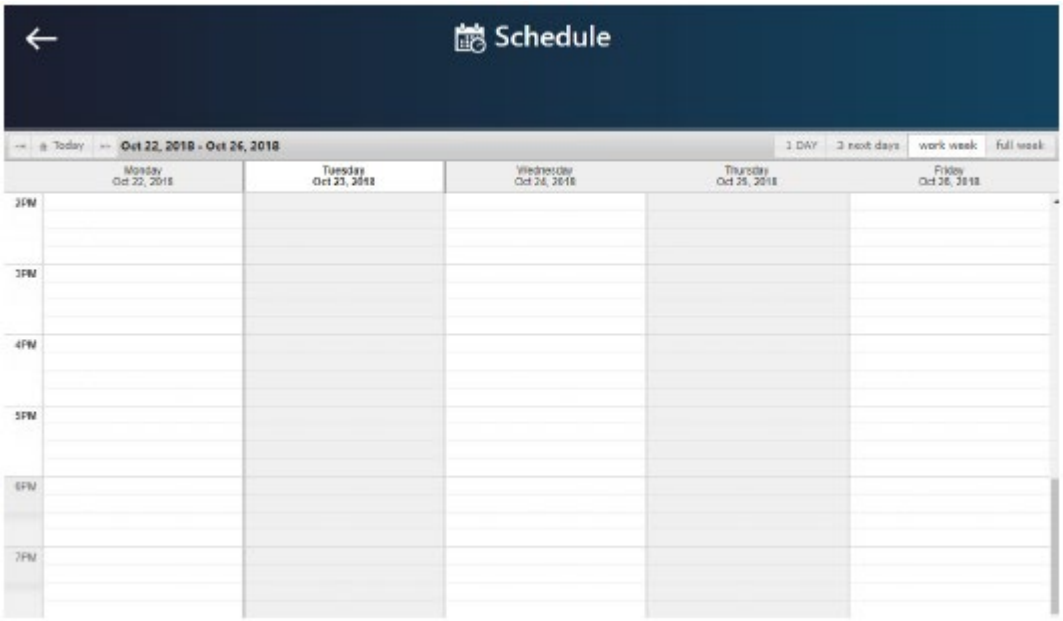
プロファイルのスケジュール設定

プロファイルのスケジュールを設定するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. メイン画面で、画面右上にあるプロファイルスケジュールのアイコン( )をクリックしてください。

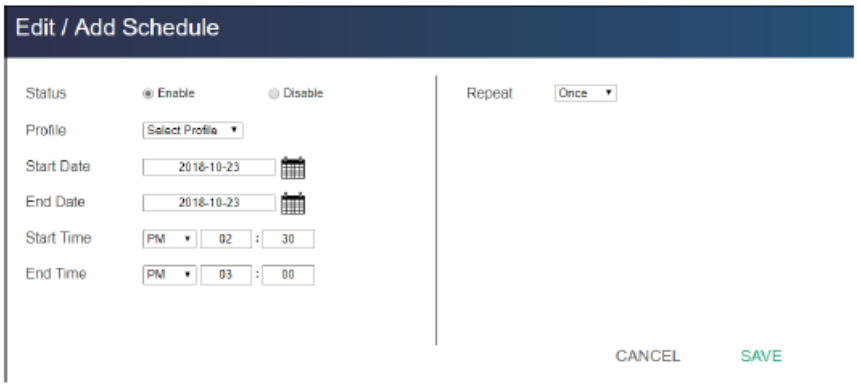


スケジュールが何も設定されていないプロファイルのスケジュール画面は、下図のように表示されます。

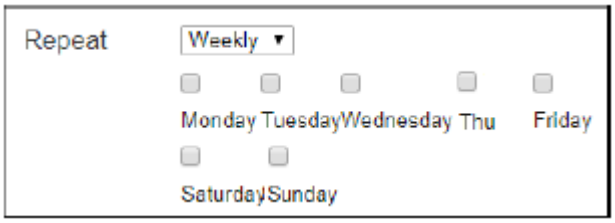


この画面では、現在のスケジュールの表示形式を「1 DAY」(1 日)、「3 next days」(3 日)、「work week」(労働時間)、「full week」(1 週間)から選択することができます。

2. スケジュールの日時をクリックして選択し、設定を行ってください。下図はその例です。

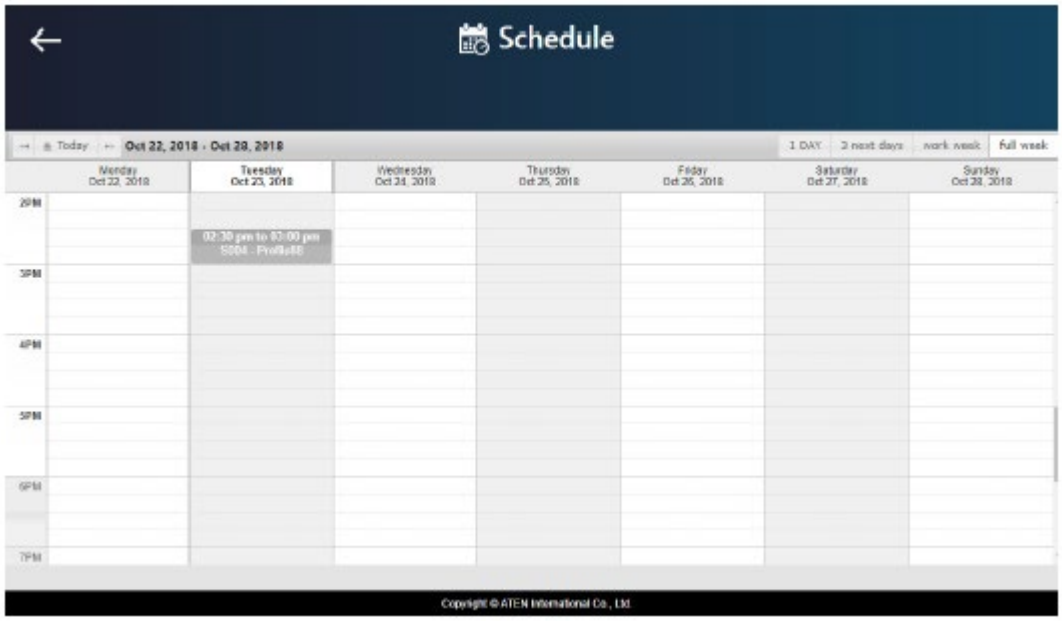


3. 必要に応じて、スケジュールの編集/追加を行ってください。
   - ◆ Status(状態):スケジュールを有効または無効にしてください。
   - ◆ Profile(プロファイル):プロファイルを選択してください。
   - ◆ Start Date(開始日):開始日を選択または入力してください。
   - ◆ End Date(終了日):終了日を選択または入力してください。
   - ◆ Start Time(開始時刻):開始時刻を選択または入力してください。
   - ◆ End Time(終了時刻):終了時刻を選択または入力してください。
   - ◆ Repeat(繰り返し):このスケジュールを繰り返す頻度を選択してください。
     - ➢ Once(1 回のみ):スケジュールを 1 回しか実行しない場合は、このオプションを選択してください。
     - ➢ Daily(毎日):スケジュールを毎日実行する場合は、このオプションを選択してください。
     - ➢ Weekly(毎週):スケジュールを毎週実行する場合は、このオプションを選択してください。このオプションでは、スケジュールを実行する曜日を選択することができます。オプションは下図のとおりです。



     - ➢ Monthly(毎月):スケジュールを毎月実行する場合は、このオプションを選択してください。このオプションでは、スケジュールを実行する日を選択するか、スケジュールの実行期間を指定することができます。画面内の指示に従ってスケジュールの設定を行ってください。

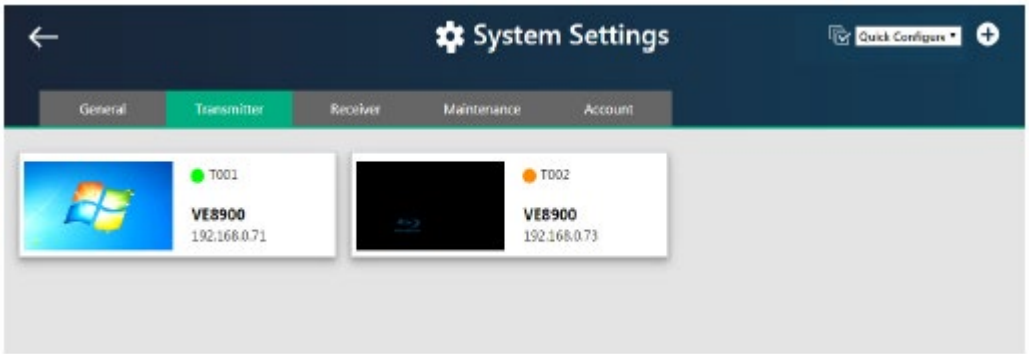
4. 「SAVE」(保存)をクリックして、スケジュールを保存してください。下図は、スケジュールを保存した場合の例です。



VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの管理

VE8900/VE8950/VE8952 の状態確認

お使いの VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの状態は、メイン画面で「 」をクリックした後、「Transmitter」(トランスミッター)または「Receiver」(レシーバー)タブをクリックすることで確認できます。



色の付いた丸は、VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの状態を表しています。状態を表す色および、その説明は、下表を参照してください。

色	説明
グリーン	デバイスは接続中で、アクティブな状態です。
オレンジ	デバイスはスタンバイ中です。
グレー	デバイスはオフラインです。

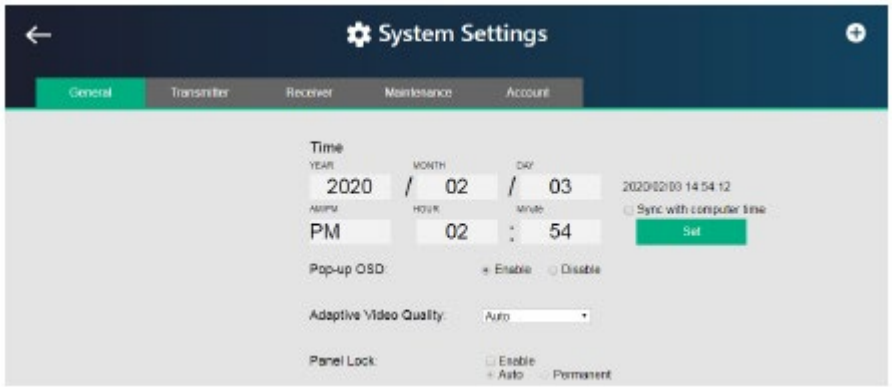
第 5 章
システム設定

概要

「System Settings」(システム設定)画面では、日時の設定、接続された VE8900/VE8950/VE8952 の設定、デバイスファームウェアのアップグレード、および VE マネジャーの設定のバックアップをそれぞれ行うことができます。

全般設定

「General」(全般)タブには、日付、時刻、およびパネルのロックに関する設定が含まれます。



「General」(全般)タブにアクセスするには、メイン画面で「 」をクリックし、「General」(全般)タブをクリックしてください。

◆ Date and time(日時):クリックしてから、変更したい日時を入力し、「Set」(設定)をクリックすると、設定内容を保存します。

◆ Sync with computer time(コンピューターの時刻と同期):コンピューターの時刻と同期を行いたい場合は、この項目にチェックを入れて、「Set」(設定)をクリックしてください。

◆ Pop-up OSD（OSD のポップアップ）：この項目を有効にすると、ビデオソースの切り替え時に OSD を表示します。無効にすると、OSD は表示されません。

◆ Video Quality（ビデオ品質）：クリックすると、表示するビデオの画質を選択することができます。

◆ Panel Lock（パネルロック）：

- 「Permanent」（常に）を選択すると、接続されているすべての VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのパネル操作をロックします。個々の VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのパネルのロックを解除するには、「Enable」（有効にする）の項目からチェックを外してください。
- 「Auto」（自動）を選択すると、アイドル時間が 1 分以上経過した場合に、接続されているすべての VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのパネル操作を自動でロックします。個々の VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのパネルをロック解除するには、「Down(-)」ボタンを 3 秒間長押ししてください。

◆ Installation Wizard（インストールウィザード）：右上にある「 」をクリックすると、インストールウィザードを開きます。詳細については、p.42「VE マネジャーへのログインと設定」を参照してください。

「Apply」（適用）をクリックすると、接続された VE8900/VE8950/VE8952 デバイスに対して設定内容を適用します。

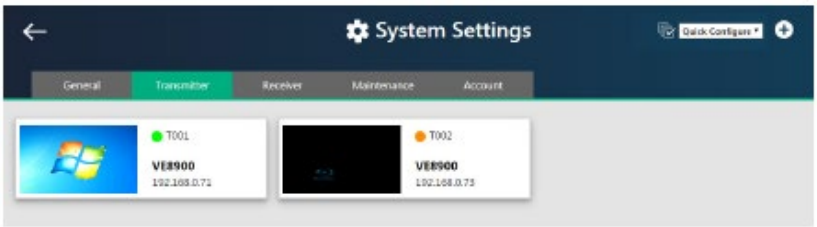
トランスミッターの設定

「Transmitter」(トランスミッター)タブには、統合されたトランスミッターVE8900T/VE8950T/VE8952T が表示され、これらの設定にアクセスすることができます。

トランスミッターの設定にアクセスするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

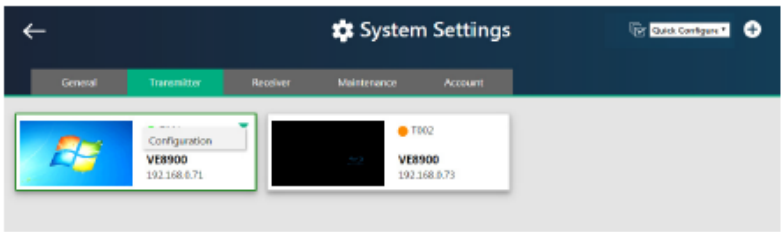
1. メイン画面で「 」をクリックし、「Transmitter」(トランスミッター)タブをクリックしてください。

   そうすると、統合されたトランスミッターVE8900T/VE8950T/VE8952T が表示されます。

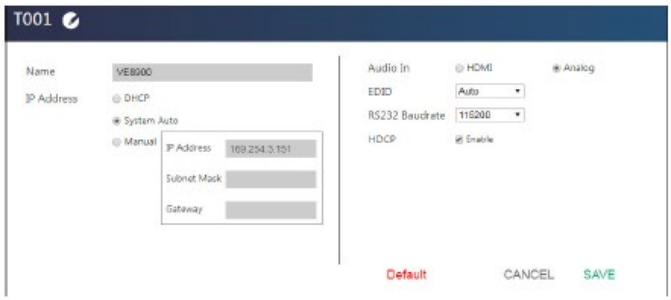


2. 設定対象となるトランスミッターの上にカーソルを動かしてください。そうすると、トランスミッターのプレビューウィンドウの右上にグリーンの矢印が表示されます。

3. グリーンの矢印をクリックしてください。そうすると、ドロップダウンメニューが表示されます。



4. 「Configuration」(設定)をクリックすると、下図のような画面が表示されます。



5. 必要に応じて設定内容を定義してください。

- ◆ Name（名前）：クリックすると、トランスミッターの名前を変更します。
- ◆ IP Address（IP アドレス）：トランスミッターの IP アドレスを取得する方法を選択してください。デフォルトでは、この項目は「System Auto」（システム自動）に設定されています。
  - ➢ DHCP：このオプションを選択すると、IP アドレスは DHCP サーバーにアクセスし、アドレスを取得するようになります。
  - ➢ System Auto（システム自動）：このオプションを選択すると、IP アドレスは VE マネジャーによって自動的に割り当てられます。
  - ➢ Manual（手動）：このオプションを選択すると、目的のトランスミッターに対して手入力で IP アドレスの設定を行います。この場合は、トランスミッターの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを該当欄にそれぞれ入力してください。
- ◆ Audio In（オーディオ入力）：オーディオ信号の種類を選択してください。
- ◆ EDID：トランスミッターVE8900T/VE8950T/VE8952T は、接続されているディスプレイから EDID 情報を取得すると、この情報を分析し、入力ソースのセットアップを行います。お使いの環境に適した EDID モードを選択してください。
  - ➢ Default（デフォルト）：ATEN プリセットの EDID リストに基づいて、入力を最適な設定に定義します。
  - ➢ Auto（自動）：入力に対して、接続されているすべてのディスプレイに最適な解像度を設定します。ディスプレイの挿抜ごとに再検出を行います。
  - ➢ Manual（手動）：入力に対して、ユーザー定義の設定を行います。
  - ➢ Remix（リミックス）：入力に対して、接続されているディスプレイの最適な解像度を設定します。ディスプレイの挿抜ごとに再検出は行わず、モード選択実行時に検出を行います。
- ➢ RS-232 Baud Rate（RS-232 ボーレート）：お使いの環境に適したボーレートを選択してください。
- ➢ HDCP：デフォルトでは、VE8900T/VE8950T/VE8952T に対して HDCP が有効になっています。
- ➢ Default（デフォルト）：クリックすると、トランスミッターの設定をデフォルト値に戻します。

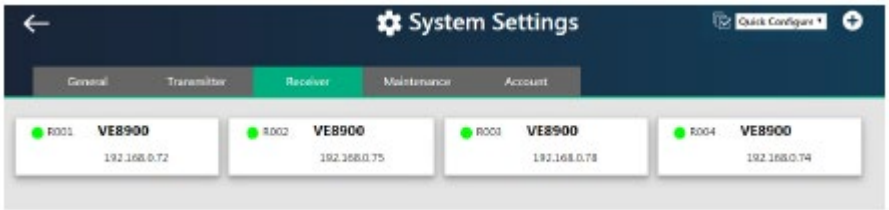
6. 「SAVE」（保存）をクリックして、変更内容を保存してください。

レシーバーの設定

「Receiver」(レシーバー)タブには、統合されたレシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R が表示され、これらの設定にアクセスすることができます。

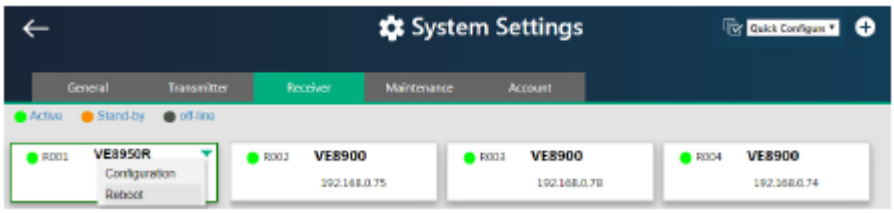
レシーバーの設定にアクセスするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. メイン画面で「 」をクリックし、「Receiver」(レシーバー)タブをクリックしてください。そうすると、統合されたレシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R が表示されます。



2. 設定対象となるレシーバーの上にカーソルを動かしてください。そうすると、レシーバーのプレビューウィンドウの右上にグリーンの矢印が表示されます。

3. グリーンの矢印をクリックすると、ドロップダウンメニューが表示されます。



4. ドロップダウンメニューから「Configuration」(設定)をクリックすると、下図のような画面が表示されます。

5. 必要に応じて設定内容を定義してください。

- ◆ Name(名前):クリックすると、レシーバーの名前を変更します。
- ◆ IP Address(IP アドレス):レシーバーの IP アドレスを取得する方法を選択してください。デフォルトでは、この項目は「System Auto」(システム自動)に設定されています。
  - ➢ DHCP:このオプションを選択すると、IP アドレスは DHCP サーバーにアクセスし、アドレスを取得します。
  - ➢ System Auto(システム自動):このオプションを選択すると、IP アドレスは VE マネジャーによって自動的に割り当てられます。
  - ➢ Manual(手動):このオプションを選択すると、目的のレシーバーに対して手入力で IP アドレスの設定を行います。この場合、レシーバーの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを該当欄にそれぞれ入力してください。
- ◆ Connected TX(接続された Tx):このレシーバーに対して接続するビデオソースを定義します。
- ◆ IR/RS-232:IR/RS-232 信号のソースを設定します。デフォルトでは、IR および RS-232 は無効(Manual > N/A)に設定されています。
  - ➢ Follow Video Path(ビデオパスに従う):このオプションを選択すると、レシーバーがビデオソースを取得することになっているトランスミッター(接続された Tx)から IR/RS-232 信号を受信します。
  - ➢ Manual(手動):この設定を使うと、別のソースから IR/RS-232 信号を取得するように選択することができます。
- ◆ USB:接続された USB デバイスに対してソースを設定します。
  - ➢ Follow Video Path(ビデオパスに従う):このオプションを選択すると、レシーバーがビデオソースを取得することになっているトランスミッター(接続された Tx)から USB 信号を受信します。
  - ➢ Manual(手動):この設定を使うと、別のソースから USB 信号を取得するように選択することができます。
- ➢ Fast Switching(高速切替):クリックすると、高速切替用の解像度を定義します。

注意：	最適な状態でお使いいただけるよう、この項目にはビデオソースと同じ解像度とリフレッシュレートを設定し、すべてのレシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R で同一の値に設定されていることをご確認ください。

- **RS-232 Baud Rate（RS-232 ボーレート）：**ドロップダウンメニューをクリックし、レシーバーに対してボーレートを設定してください。
- **Default（デフォルト）：**クリックすると、このウィンドウにおけるレシーバーの設定をデフォルト値に戻します。

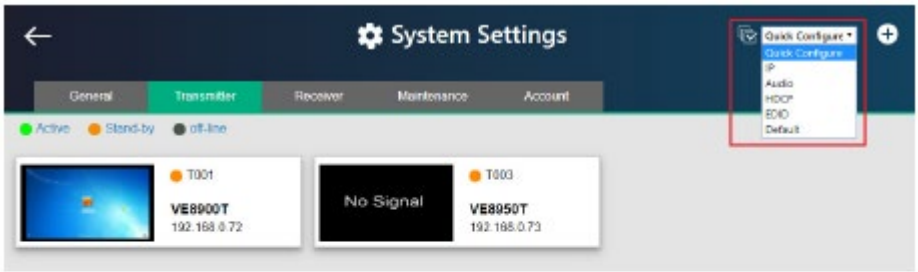
6. 「SAVE」（保存）をクリックして、変更内容を保存してください。

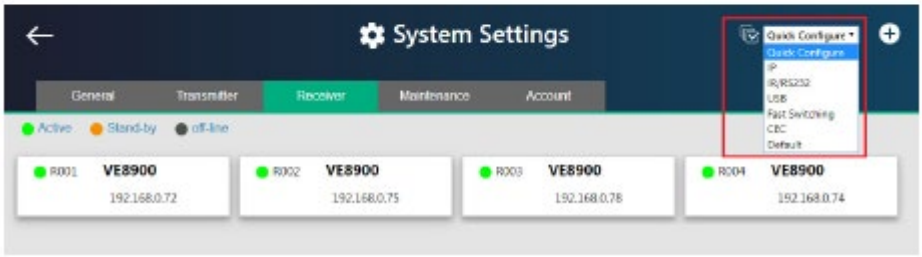
一括設定

一括設定のオプションは、トランスミッターとレシーバーの両方で利用することができます。このオプションは、画面の右上に「Quick Configuration」(クイック設定)というメニューで表示されます。

指定した設定を、デバイスのグループ単位で適用したい場合は、次の手順に従って操作を行ってください。

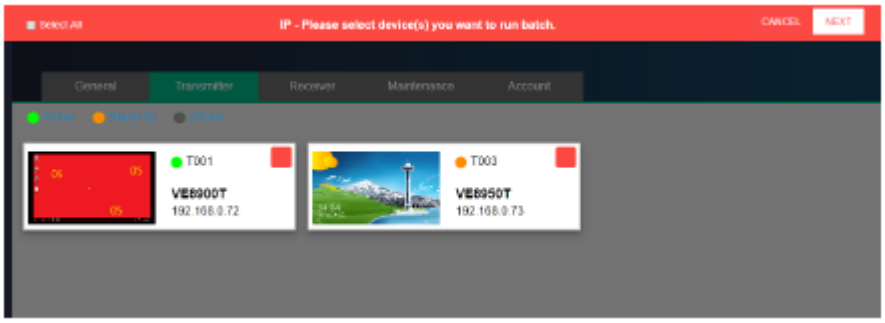
1. ドロップダウンメニューの「Quick Configuration」(クイック設定)をクリックしてください。



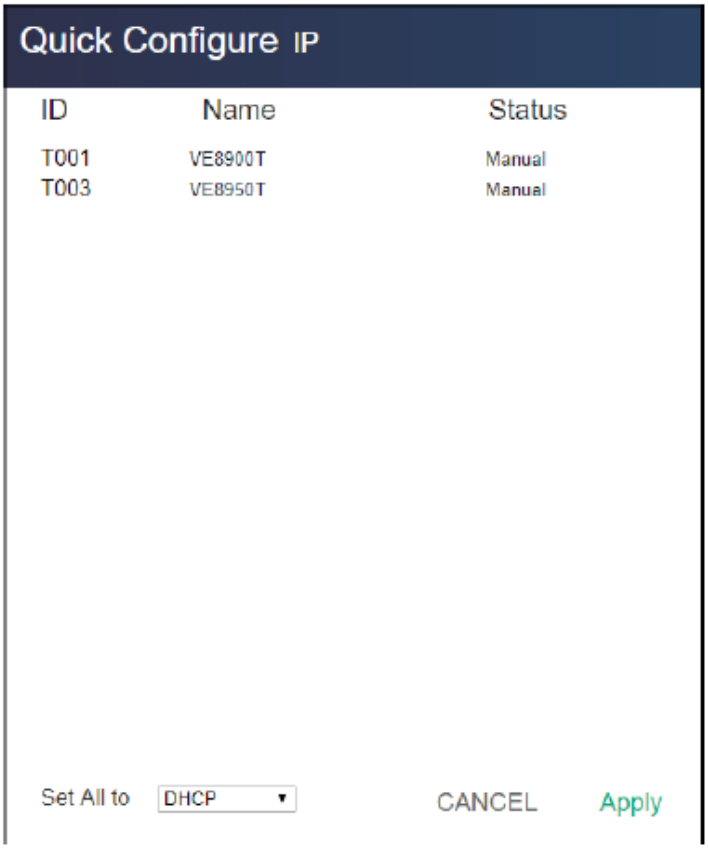


2. 構成したい設定を選択してください。
   ドロップダウンメニューで利用可能なメニューは、トランスミッターまたはレシーバーのどちらの設定を操作しているかによって、異なります。
   - ◆ トランスミッターは p.70「トランスミッターの設定」を参照してください。
   - ◆ レシーバーは p.72「レシーバーの設定」を参照してください。

   インターフェースを使うと、どちらのデバイスを設定したいか選択することができます。



3. 設定対象となるデバイスにチェックを入れてください。または、一覧にあるすべてのデバイスを選択する場合は、左上にある「Select All」(すべて選択)にチェックを入れてください。そうしたら、「NEXT」(次へ)をクリックしてください。
「Quick Configuration」(クイック設定)ウィンドウが表示されたら、各デバイスの現在の状態を確認することができます。
ウィンドウ下部では設定を行うためのドロップダウンメニューを利用することができます。



4. 目的の設定を選択したら、「Apply」(適用)をクリックして、すべてのデバイスに設定を適用してください。

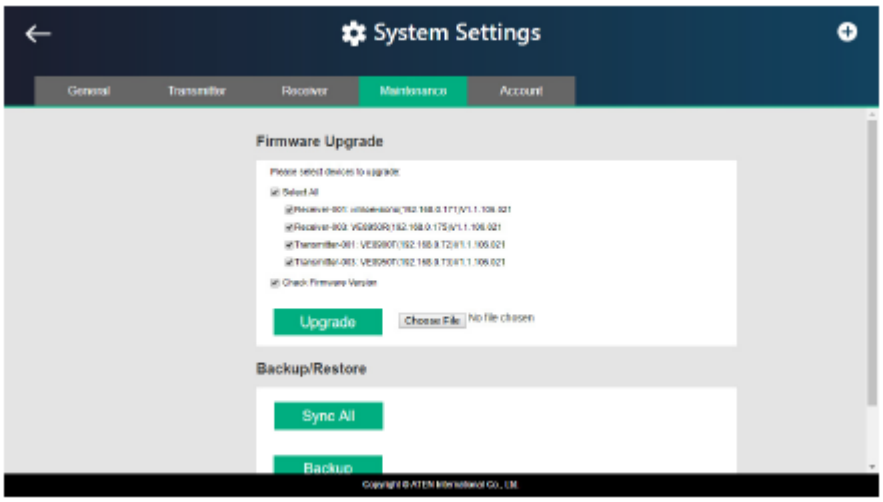
メンテナンス

「Maintenance」(メンテナンス)タブを使うと、デバイスのファームウェアアップグレード、トランスミッターやレシーバーのレイアウトのバックアップ、および過去にバックアップされたデバイス設定のリストアといった操作を行うことができます。

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのファームウェアアップグレード

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのファームウェアをアップグレードするには、下記の手順で操作を行ってください。

1. メイン画面で「 」をクリックしてから、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。そうすると、検出されたトランスミッターやレシーバーの機器および、これらのバージョン情報がファームウェアアップグレードのセクションに一覧表示されます。



2. 「Choose File」(ファイルの選択)をクリックし、リモートアクセスしている PC のファームウェアアップグレードファイルが保存されているフォルダーに移動して、該当ファイルを選択してください。
3. アップグレードの必要がないデバイスからチェックを外してください。
4. デフォルトでは、バージョンのロールバック(同バージョンの上書き)を含むアップグレードは無視されます。アップグレードとバージョンのロールバックを両方適用する場合は、「Check Firmware Version」(ファームウェアのバージョンを確認する)の項目からチェックを外してください。

5.　「Upgrade」(アップグレード)をクリックして、アップグレード処理を開始してください。

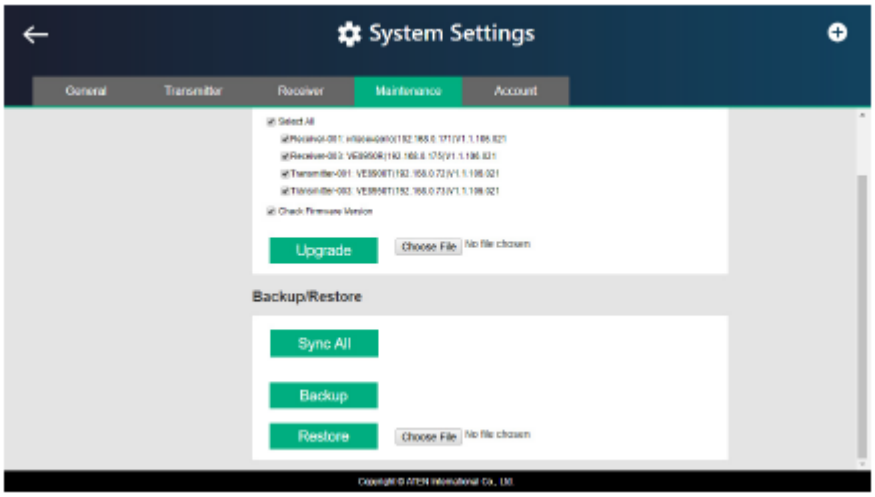
全デバイスの同期

デバイスの追加または置き換えを行う場合は、「Sync All」(すべて同期)ボタンをクリックして、追加/置き換え済みデバイスをシステムに認識させてください。

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの設定のバックアップ

トランスミッターやレシーバーのレイアウトは、バックアップやデータ移行のためにエクスポートすることができます。

1.　メイン画面で「 」をクリックしてから、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。

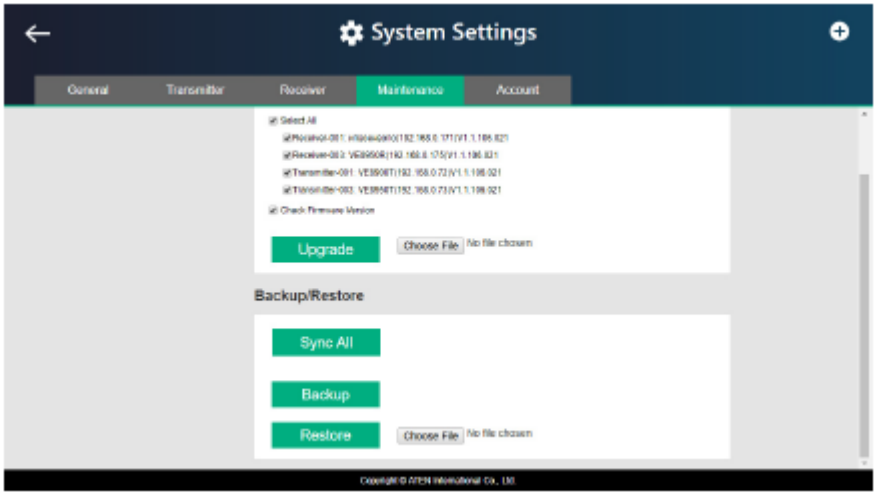


2.　「Backup」(バックアップ)をクリックしてください。バックアップが完了すると、確認メッセージが表示されます。

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの設定のリストア

過去にトランスミッターやレシーバーのレイアウトへ保存された設定内容は、VE マネジャーにリストアすることができます。

1. メイン画面で「⚙」をクリックしてから、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



2. 「Choose File」(ファイルの選択)をクリックし、過去に保存した設定ファイルが保存されているフォルダーに移動して、該当ファイルを選択してください。

3. 「Restore」(リストア)をクリックし、VE マネジャーに対して設定の上書き処理を開始してください。リストアが完了すると、確認メッセージが表示されます。

リカバリーモード

リカバリーモードが必要になるのは、次の 4 パターンの条件です。

◆ ファームウェアアップグレードが手動で中止された場合

◆ メインボードのファームウェアアップグレードに失敗した場合

◆ I/O ファームウェアアップグレードに失敗した場合

◆ 未知の理由によりユニットの電源が切られた場合

VE8900/VE8950/VE8952 をリカバリーモードに設定するには、次の手順に従って操作を行ってください。

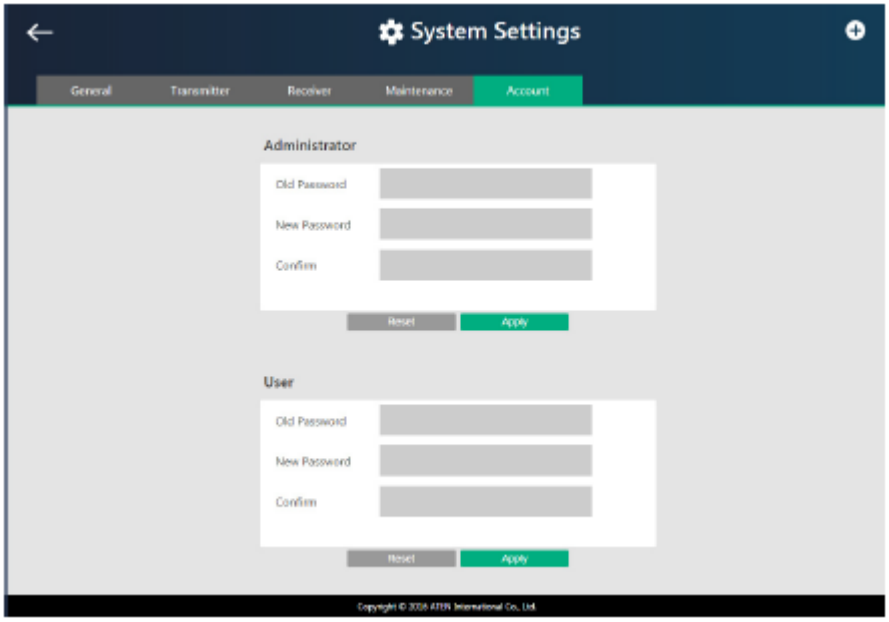
1. Prev(+)ボタンを押したままにしてください。
2. VE8900/VE8950/VE8952 に電源を入れてください。

アカウントの設定

VE マネジャーでは、「Administrator」(アドミニストレーター)と「User」(ユーザー)といった 2 種類のアカウントレベルを提供しています。デフォルトで設定されているパスワードと操作権限は下表のとおりです。

ユーザータイプ	デフォルトパスワード	操作権限
Administrator (アドミニストレーター)	password	すべての設定
User (ユーザー)	password	ソースの割り当て、およびビデオウォールのレイアウトにおける VE8900/VE8950/VE8952 デバイスの配置のみ

デフォルトパスワードを変更するには、メイン画面で「 」をクリックしてから、「Account」(アカウント)タブをクリックしてください。



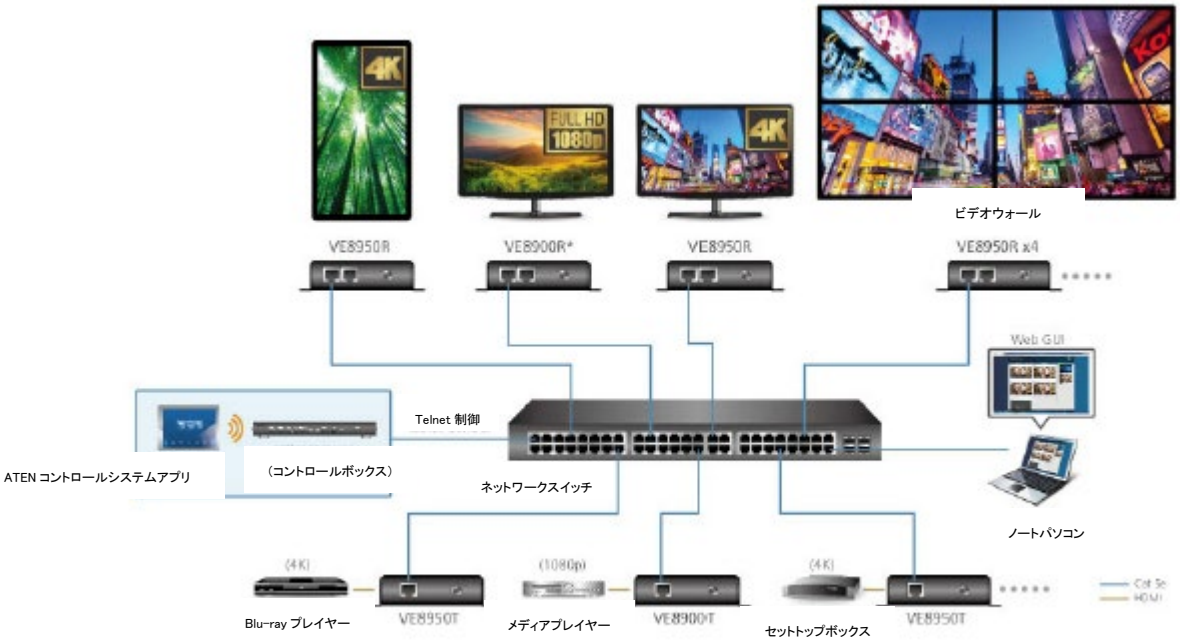
第 6 章
CLI コマンド

概要

VE8900/VE8950/VE8952 のデバイスは、コンピューターや ATEN コントロールボックスから、Telnet、TCP、または RS-232 コマンドを使って、管理や設定を行うことができます。

操作を始める前に

お使いのシステムにおいて、コンピューターまたは ATEN コントロールボックスが、下図のようにイーサネットスイッチに接続されていることをご確認ください。



注意：VE8900R は最大 1080p の解像度に対応しています。ただし、4K から 1080p へのダウンスケーリングには対応していません。

コマンドの実行

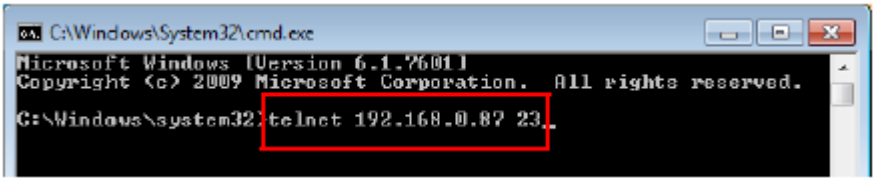
次の操作方法は、コンピューターを使ってコマンドを実行することを想定しています。ATEN コントロールボックスを使ってコマンドを実行する方法の詳細は、ATEN コントロールシステムのユーザーマニュアルを参照してください。コマンドを実行するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 接続されているコンピューターで、管理者としてコマンドプロンプトを起動してください。

2. お使いのコンピューターでサポートされるコマンドの種類に応じて、次の手順に従って操作を行い、システムに接続してください。

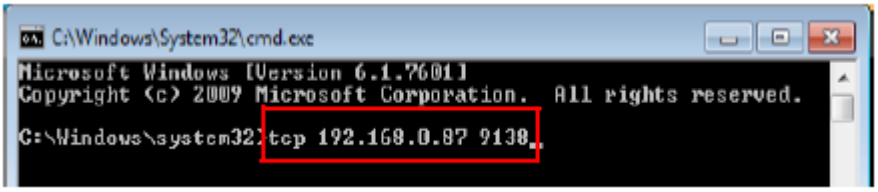
◆ Telnet 接続

コマンドプロンプトで、お使いのシステムにおけるレシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R の IP アドレス(いずれか 1 台)とポート番号 23 を入力してください。下図は、その例です。



◆ TCP 接続

コマンドプロンプトで、お使いのシステムにおけるレシーバー VE8900R/VE8950R/VE8952R の IP アドレス(いずれか 1 台)とポート番号 9138 を入力してください。下図は、その例です。



◆ RS-232 接続

VE マネジャーで、すべてのレシーバーVE8900R/VE8950R/VE8952R の IR/RS-232 を「Manual」(手動)に設定し、「Command Mode」(コマンドモード)オプションを選択してください。

接続が確立すると、「Welcome to CLI mode」(CLI モードへようこそ)というメッセージが表示されます。

3. 実行したいコマンドを入力してください。
   コマンド構文に関する詳細は、p.85「コマンド」を参照してください。

4. [Enter]キーを押して、コマンドを実行してください。

5. コマンドが正常に終了すると、システム側から確認メッセージが表示されます。

6. セッションを終了するには、コマンドプロンプトで logout と入力し、[Enter]キーを押してください。

コマンド

基本操作

◆ 基本的なコマンドの構文は次のとおりです。
コマンド名 + パラメーター1 + パラメーター2 + 操作 1 + 操作 2

◆ 必ず、コマンド名を最初に入力し、その後に 1 つ、ないしは複数のパラメーターを指定してください。また、操作があれば、その後に入力してください。

◆ パラメーターが複数ある場合、これらのパラメーターの順番がコマンドの実行結果に影響を及ぼすことはありません。例えば、次のコマンドは両方とも同じタスクを実行します。
コマンド名 + パラメーター1 + パラメーター2
コマンド名 + パラメーター2 + パラメーター1

◆ 操作が複数ある場合も同様に、これらの操作の順番がコマンドの実行結果に影響を及ぼすことはありません。例えば、次のコマンドは両方とも同じタスクを実行します。
コマンド名 + 操作 1 + 操作 2
コマンド名 + 操作 2 + 操作 1

◆ コマンド構文は次の表記法に則って説明します。

表記法	説明
+	コマンドにおけるスペースを表します。
[ ]	オプションのアイテムを示します。コマンドを実行する際は、前後のカッコは入力せず、オプションだけを入力してください。
<*引数*>	ユーザーが提供しなければならない値の名前を示します。コマンドを実行する際は、前後のカッコは入力せず、引数だけを入力してください。
|	コマンドラインにおいて、相互に排他的な複数のオプションを示します。コマンドラインには、この記号を含めず、オプションだけを入力してください。

ソースの切替

ディスプレイに表示されるソースを切り替えるには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

sw + i<*ポート*> + [o<*ポート*>] + on | off + ¥r¥n

操作	説明
i<*ポート*>	入力ソース（VE8900T/VE8950R/VE8952R トランスミッター）デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、IP アドレスを表します。
o<*ポート*>	出力（VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー）デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、IP アドレスを表します。CLI 接続を確立するのに使用するディスプレイに対して、特定のソースを割り当てる場合は、この変数を省略してください。
on	指定されたコマンドを有効にします。
off	現在の接続を切断します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ IP アドレス「10.0.90.11」の VE8900T トランスミッターから、CLI ソースを確立するのに使用した VE8900R レシーバーに切り替えるには、次のコマンドを入力します。

sw i10.0.90.11 on

◆ ID が 5 の VE8950R レシーバーで、ソースを VE8950T トランスミッターに切り替えるには、次のコマンドを入力します。

sw i1 o5 on

◆ IP アドレスが「10.0.70.43」の VE8900T トランスミッターから、ID が 3 の VE8900R レシーバーに対するソース伝送を停止するには、次のコマンドを入力します。

sw i10.0.70.43 o3 off

ビデオ、USB、RS-232、IR パスの切替

このコマンドを使うと、ビデオ、USB、RS-232、また IR の伝送パスを切り替えます。この機能を使用するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

sw + i<*ポート*> + all | video | usb | serial | ir + o<*ポート*> + ¥r¥n

操作	説明
i<*ポート*>	入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター)デバイスのデバイス ID を表します。
o<*ポート*>	出力(VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー)デバイスのデバイス ID を表します。
all	すべての伝送パス(指定されたトランスミッターのビデオ、USB、IR を含む)を表します。
video	指定されたトランスミッターのビデオパスを表します。
usb	指定されたトランスミッターの USB パスを表します。
serial	指定されたトランスミッターの RS-232 パスを表します。
ir	指定されたトランスミッターの IR パスを表します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ ID が 3 の VE8900T トランスミッターのビデオパスを、ID が 4 の VE8900R レシーバーへと切り替えるには、次のコマンドを入力します。

sw i3 video o4

◆ ID が 5 の VE8950T トランスミッターの USB パスを、ID が 6 の VE8950R レシーバーへと切り替えるには、次のコマンドを入力します。

sw i1 usb o6

ビデオ、USB、RS-232、IR パスの無効化

このコマンドを使うと、指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーに対するビデオ、USB、RS-232、また IR の伝送パスを無効にします。この機能を使用するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

sw + o<*ポート*> + all | video | usb | serial | ir + off + ¥r¥n

操作	説明
o<*ポート*>	出力（VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー）デバイスのデバイス ID を表します。
all	すべての伝送パス（指定されたトランスミッターのビデオ、USB、IR を含む）を表します。
video	指定されたトランスミッターのビデオパスを表します。
usb	指定されたトランスミッターの USB パスを表します。
serial	指定されたトランスミッターの RS-232 パスを表します。
ir	指定されたトランスミッターの IR パスを表します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ ID が 4 の VE8900R レシーバーのビデオ、USB、RS-232、および IR の各伝送パスを無効にするには、次のコマンドを入力します。

sw o4 all off

ポート切替アラートの表示

このコマンドを使うと、VE マネジャー、VE8900/VE8950/VE8952 デバイスのプッシュボタン、または IR リモコンを使ってポート切替が行われた際に、コマンドラインのインターフェースでアラートメッセージを表示します。この機能を有効または無効にするには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

echo + on | off + ¥r¥n

操作	説明
on	コマンドプロンプトウィンドウでアラートを送信して、ポート切替設定を通知します。例えば、ユーザーが、ID が 2 の VE8900T を、ID が 3 の VE8900R に割り当てる場合、システムはコマンドプロンプトのウィンドウに次のメッセージを送信します。 **sw o2 i3 on**
off	ポート切替のアラートを無効にします。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

システム設定の確認

このコマンドを使うと、次のシステム設定を確認することができます。

◆ ビデオウォールの ID

◆ VE8900/VE8950/VE8952 のトランスミッターおよびレシーバーにおける、デバイス ID、MAC アドレス、IP アドレス、ファームウェアのバージョン、デバイス名

システム設定を確認するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

list + rx | tx | device | videowall + ¥r¥n

操作	説明
rx	使用環境における、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーのシステム情報を一覧表示します。この情報には、デバイス ID、MAC アドレス、IP アドレス、ファームウェアのバージョン、デバイス名が含まれます。
tx	使用環境における、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターのシステム情報を一覧表示します。この情報には、デバイス ID、MAC アドレス、IP アドレス、ファームウェアのバージョン、デバイス名が含まれます。
device	使用環境における、すべての VE8900/VE8950/VE8952 トランスミッターおよびレシーバーのシステム情報を一覧表示します。この情報には、デバイス ID、MAC アドレス、IP アドレス、ファームウェアのバージョン、デバイス名が含まれます。
videowall	ビデオウォールの設定を一覧表示します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

ビデオウォールの設定

レイアウトをビデオウォールに適用して、表示するソースを割り当てるには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

vw + f<*ビデオウォール ID*> + l<*レイアウト名*> + [o<*ポート*>] + i<*ポート*> + on | off + ¥r¥n

操作	説明
f<*ビデオウォール ID*>	指定されたレイアウトとソースを表示したいビデオウォールの ID を表します。この ID は、目的のビデオウォールで使用されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの ID を代わりに使うこともできます。ビデオウォール ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.90「システム設定の確認」を参照してください。
l<*レイアウト名*>	指定されたビデオウォールに適用したいレイアウトの名前を表します。レイアウト ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.90「システム設定の確認」を参照してください。また、目的のビデオウォールに適用されたものと同じレイアウトを使用したい場合は、このパラメーターを省略してください。
i<*ポート*>	使用したい入力（VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター）デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、IP アドレスを表します。
o<*ポート*>	指定されたソース（i<*ポート*>）を表示する出力（VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー）デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、IP アドレスを表します。 注意：指定されたレイアウトでディスプレイを 4 台使用していて、そのうち 2 台が結合されている場合は、各ディスプレイに表示されるソースを表すのに、**o<*ポート*> + i<*ポート*>** の組み合わせを 3 回入力する必要があります。指定されたレイアウトに結合された画面がない場合は、**o<*ポート*>**のパラメーターを省略してください。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ レイアウト 1 を、ID が 8c8f12e62d3c87ef のビデオウォールに適用し、VE8950T（デバイス ID が 2）に接続されたソースをビデオウォールに割り当てて、そのうちのディスプレイ 1 台が VE8900R（IP アドレス：10.0.66.73）に接続されている場合は、次のコマンドを入力します。

vw f8c8f12e62d3c87ef lLayout 1 o10.0.66.73 i2 on

VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーやビデオウォールのミュート

VE8900R/VE8950R レシーバーやビデオウォールのオーディオ出力をミュートするには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

mute + o<*ポート*> | f<*ビデオウォール ID*> + on | off + ¥r¥n

操作	説明
o<*ポート*>	出力（VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー）デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーをミュートするには、アスタリスク（*）を使用してください。
f<*ビデオウォール ID*>	ミュートに設定したいビデオウォールの ID を表します。この ID は、目的のビデオウォールで使用されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの ID を代わりに使うこともできます。ビデオウォール ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.90「システム設定の確認」を参照してください。
on	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーまたはビデオウォールのオーディオをミュートに設定します。
off	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーまたはビデオウォールのオーディオをミュート解除します。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ IP アドレスが「10.0.90.22」の VE8900R レシーバーのオーディオをミュートに設定するには、次のコマンドを入力します。

mute o10.0.90.22 on

◆ ビデオウォール ID が 0 のビデオウォールのオーディオをミュートに設定するには、次のコマンドを入力します。

mute f0 on

◆ ビデオウォール ID が 1 のビデオウォールのオーディオをミュート解除するには、次のコマンドを入力します。

mute f1 off

ビデオ出力の無効化

指定されたレシーバーや特定のビデオウォールからのビデオ出力を無効にするには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

blankscreen + o<*ポート*> | f<*ビデオウォール ID*> + on | off + ¥r¥n

操作	説明
o<*ポート*>	ビデオ出力を無効にしたい出力（VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー）デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーからのビデオ出力を無効にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
f<*ビデオウォール ID*>	ビデオ出力を無効にしたいビデオウォールの ID を表します。この ID は、目的のビデオウォールで使用されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの ID を代わりに使うこともできます。ビデオウォール ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.90「システム設定の確認」を参照してください。
on	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーまたは特定のビデオウォールのビデオ出力を無効にします。
off	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーまたは特定のビデオウォールのビデオ出力を有効にします。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ IP アドレスが「10.0.90.22」の VE8900R レシーバーのビデオ出力を無効にするには、次のコマンドを入力します。

blankscreen o10.0.90.22 on

◆ ビデオウォール ID が 0 のビデオウォールのビデオ出力を有効にするには、次のコマンドを入力します。

blankscreen f0 off

レシーバーにおける OSD 表示の有効化/無効化

指定されたレシーバーにおける OSD 表示を有効または無効にするには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

osd + o<*ポート*> | f<*ビデオウォール ID*> + on | off + ¥r¥n

操作	説明
o<*ポート*>	OSD を表示させたい出力（VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー）デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、IP アドレスを表します。
f<*ビデオウォール ID*>	OSD を表示させたいビデオウォールの ID を表します。この ID は、目的のビデオウォールで使用されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの ID を代わりに使うこともできます。ビデオウォール ID を確認するには、list コマンドを使用してください。詳細は、p.90「システム設定の確認」を参照してください。
on	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの OSD を表示します。
off	指定された VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの OSD を非表示にします。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ IP アドレスが「10.0.90.22」の VE8900R レシーバーの OSD を表示するには、次のコマンドを入力します。

osd o10.0.90.22 on

◆ ビデオウォール ID が 0 のビデオウォールの OSD を表示するには、次のコマンドを入力します。

osd f0 off

EDID モードの設定

指定された VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターで EDID モードを設定するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

edid + i<*ポート*> | <*EDID モード*> + ¥r¥n

操作	説明
i<*ポート*>	目的となるディスプレイのソースに接続されている出力(VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター)デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、IP アドレスを表します。
<*EDID モード*>	指定されたVE8900T/VE8950T/VE8952Tトランスミッターに設定する EDID モードを表します。入力できるモードは、**default**、**remix**、**auto**、**manual** です。 ◆ **default**:ATEN プリセットの EDID リストに基づいて、入力を最適な設定に定義します。 ◆ **remix**:入力に対して、接続されているディスプレイの最適な解像度を設定します。ディスプレイの挿抜ごとに再検出は行わず、モード選択実行時に検出を行います。 ◆ **auto**:入力に対して、接続されているすべてのディスプレイに最適な解像度を設定します。ディスプレイの挿抜ごとに再検出を行います。 ◆ **manual**:入力に対して、ユーザー定義の設定を行います。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ デバイス ID が 16 の VE8900T トランスミッターの EDID モードを「auto」(自動)に設定するには、次のコマンドを入力します。

edid i016 auto

VE8900/VE8950/VE8952 の再起動

VE8900/VE8950/VE8952 を再起動するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

reset + a<*ポート*> | i<*ポート*> | o<*ポート*> + ¥r¥n

操作	説明
a<*ポート*>	目的となる VE8900/VE8950/VE8952 のレシーバーまたはトランスミッターのデバイス ID を表します。
i<*ポート*>	目的となる入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター)デバイスのデバイス ID を表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
o<*ポート*>	目的となる出力(VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー)デバイスのデバイス ID を表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ IP アドレスが「10.0.60.13」の VE8900T トランスミッターを再起動するには、次のコマンドを入力します。

reset i10.0.60.13 または **reset a10.0.60.13**

◆ すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを再起動するには、次のコマンドを入力します。

reset o*

ボーレートの設定

VE8900/VE8950/VE8952 デバイスに対して RS-232 シリアル通信のボーレートを設定するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

reset + a<*ポート*> | i<*ポート*> | o<*ポート*> + <*ボーレート*> + ¥r¥n

操作	説明
a<*ポート*>	目的となる VE8900/VE8950/VE8952 のレシーバーまたはトランスミッターの MAC アドレスまたは IP アドレスを表します。
i<*ポート*>	目的となる入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター)デバイスのデバイス ID を表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
o<*ポート*>	目的となる出力(VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー)デバイスのデバイス ID を表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
<*ボーレート*>	目的のデバイスに設定したいボーレートを表します。入力できるボーレートは、**9600**、**19200**、**38400**、**115200** です。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ デバイス ID が 3 の VE8900T トランスミッターにおいて、ボーレートを 115200 に設定するには、次のコマンドを入力します。

baud a3 115200

◆ すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R で、ボーレートをデフォルトの設定にするには、次のコマンドを入力します。

baud o* 9600

デバイスの状態表示

この機能を使うと、VE8900/VE8950/VE8952 のトランスミッターやレシーバーの状態、あるいはVE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターから VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーへの接続の状態を表示することができます。この機能を使用するには、次の構文に従ってコマンドを入力してください。

read + [i<*ポート*>] | [o<*ポート*>] + ¥r¥n

操作	説明
i<*ポート*>	目的となる入力ソース(VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッター)デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、または IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
o<*ポート*>	目的となる出力(VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバー)デバイスのデバイス ID、MAC アドレス、または IP アドレスを表します。お使いのシステムにおける、すべての VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーを対象にするには、アスタリスク(*)を使用してください。
¥r¥n	コマンドの制御文字です。

例

◆ VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターの状態を確認するには、次のコマンドを入力します。

read i*

◆ IP アドレスが「10.0.80.66」に設定されている VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーの状態を確認するには、次のコマンドを入力します。

read o10.0.80.66

◆ VE8900T/VE8950T/VE8952T トランスミッターからの VE8900R/VE8950R/VE8952R レシーバーへの接続の状態を確認するには、次のコマンドを入力します。

read

第 7 章
モバイル制御アプリ

概要

VE8900/VE8950/VE8952 モバイル制御アプリは、ソースとディスプレイ間の切替や、お使いの VE8900/VE8950/VE8952 デバイスに対するプロファイルの適用およびスケジューリングの再設定が簡単に行えるように設計されたものです。

システム要件

アプリのインストールを行う前に、お使いのモバイルデバイスにおいて、次の対応モバイル OS が使用されていることをご確認ください。

モバイル OS	対応バージョン
iOS	10.0 以降
Android	6.0 以降

アプリのインストールと設定

1. モバイルデバイスに VE8900/VE8950/VE8952 モバイル制御アプリをインストールしてください。

   a) モバイルデバイスから、App Store または Google Play のアイコンをタップしてください。

   b) 検索ボックスに「VE8900 mobile control」と入力してください。

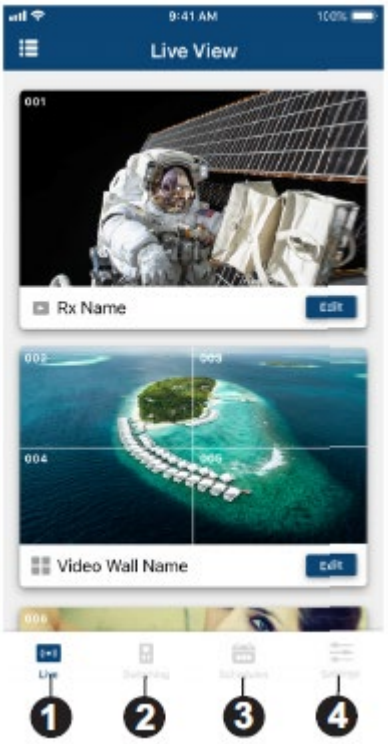
2. 「VE8900 Mobile Control」アイコンをタップしてアプリをインストールしてください。

3. 画面内の指示に従って次の操作を行ってください。
   - ◆ モバイルデバイスの Wi-Fi サービスを有効にする。
   - ◆ VE8900/VE8950/VE8952 がセットアップされているネットワークに、モバイルデバイスを接続する。

メイン画面

VE8900/VE8950/VE8952 モバイル制御アプリにログインすると、デフォルトでライブビュー画面に遷移します。各機能にアクセスするには、画面下部にあるアイコンを使ってください。また、各タブの機能概要については、下表を参照してください。

注意： アドミニストレーターとして最初にログインする場合は、次のデフォルトアカウントを使用してください。
ユーザーネーム：administrator
パスワード：password
セキュリティ上の理由により、システム側からパスワードの変更が求められます。このパスワードは、上記のデフォルトパスワードとは異なる文字列を設定してください。



No.	アイコン	説明
1	Live	このアイコンをタップすると、既に接続が確立されたビデオウォールとレシーバーのライブビューを表示します。

（表は次のページに続きます）

No.	アイコン	説明
2	Switching	このアイコンをタップすると、表示ソースと対象レシーバーを変更します。
3	Schedules	このアイコンをタップすると、既存プロファイルのスケジュール設定を行います。新規プロファイルの作成に関する詳細は、p.59「プロファイル」を参照してください。
4	Settings	このアイコンをタップすると、システム設定の定義、およびトランスミッター/レシーバーのファームウェアアップグレードを行います。

ライブビュー

ディスプレイでライブビューを確認するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. モバイル制御アプリで、「Live」(ライブ)アイコン(Live)をタップしてください。そうすると、ビデオウォールとディスプレイの一覧が、選択済みソースと共に表示されます。

2. 一覧を確認するには、上下にスクロールしてください。また、新規ディスプレイを追加したり、設定変更を行ったりした場合は、「Sync」(同期)アイコン( )をタップして、再表示してください。

ソースの切替

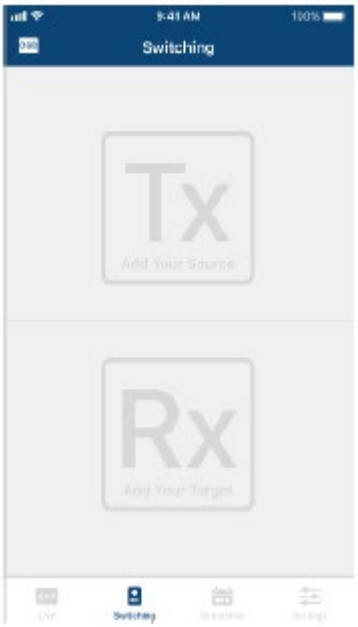
1. モバイル制御アプリで、「Live」(ライブ)アイコン(Live)をタップしてください。
2. ソースを変更したいレシーバーまたはビデオウォールをタップしてください(タップする場所は問いません)。

3. 変更したいソースをタップしてください。現在使用しているソースには赤色の枠が表示されます。また、新規ソースはグリーンで表示されます。

4. 選択されたソースのチェックマークアイコンをタップして、設定を適用してください。

複数ソース/ディスプレイの切替

1. モバイル制御アプリで、「Switching」(切替)アイコン(Switching)をタップしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



2. ソースを選択してください。
   a) 「Tx」をタップして、ソースを追加してください。そうすると、利用可能なトランスミッターの一覧が表示されます。

b) トランスミッターをタップして選択してください。選択されたデバイスはグリーンで表示されます。もう一度タップすると、選択状態を解除します。

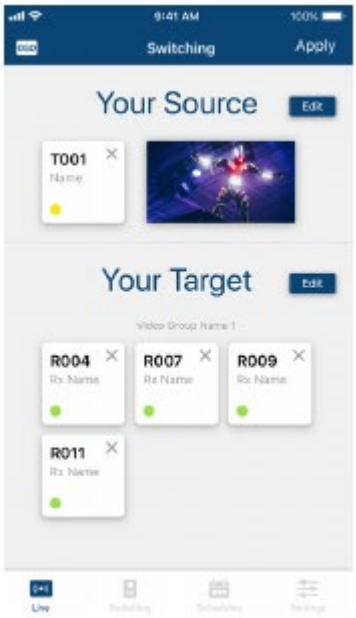
c) 「Done」(完了)をタップして、デバイスをトランスミッター一覧に追加してください。

3. ディスプレイを 1 台または複数選択してください。そうしたら、「Rx」をタップして、レシーバーを 1 台または複数追加してください。

◆ 選択されたレシーバーはグリーンで表示されます。

◆ （ビデオウォールや分配器システム用に）他のレシーバーデバイスとグループ化されたデバイスをタップすると、そのグループにおけるすべてのデバイスが同時にグリーンで表示されます。

設定が完了すると、選択したデバイスが Tx と Rx の各リストに追加されます。下図はその例です。



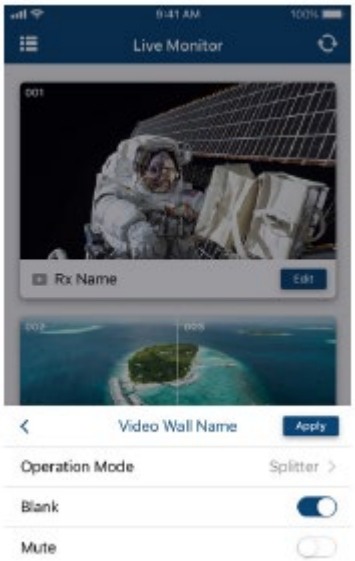
4. 選択したアイテムを編集するには、編集アイコン（ Edit ）をタップして Tx または Rx の一覧に戻ってください。

5. 「Apply」(適用)をタップして、設定を完了してください。この変更はすぐに適用されます。

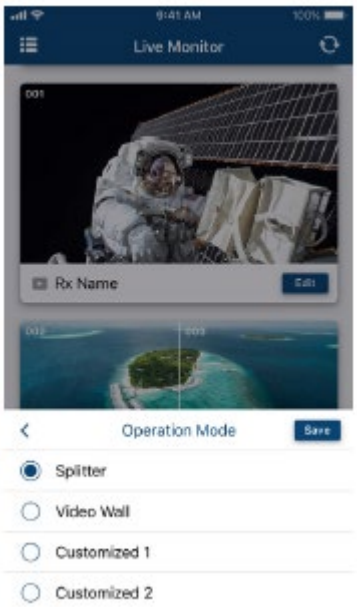
ビデオウォール/ディスプレイにおける操作モードの変更

1. モバイル制御アプリで、「Live」(ライブ)アイコン( )をタップしてください。

2. 設定対象となるビデオウォールとディスプレイを見つけたら、「Edit」(編集)アイコン(Edit)をタップしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



3. 「Operation Mode」(操作モード)をタップして、表示設定を変更してください。各種操作モードに関する詳細は、p.53「ビデオウォールのレイアウト作成」を参照してください。

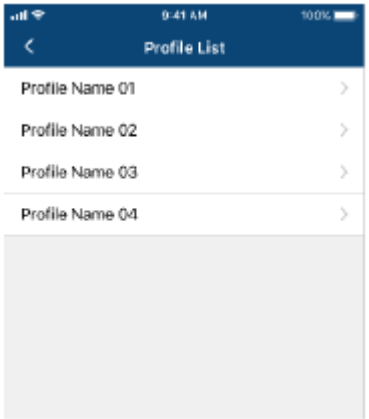


表示プロファイルの適用

VE マネジャーを使って既に表示プロファイルを設定している場合は、次の手順に従ってプロファイルを適用してください。プロファイルの作成または編集に関する詳細は、p.59「プロファイルの作成」または p.61「プロファイルの編集/削除/切断」を参照してください。

1. モバイル制御アプリで、「Live」(ライブ)アイコン( )をタップしてください。

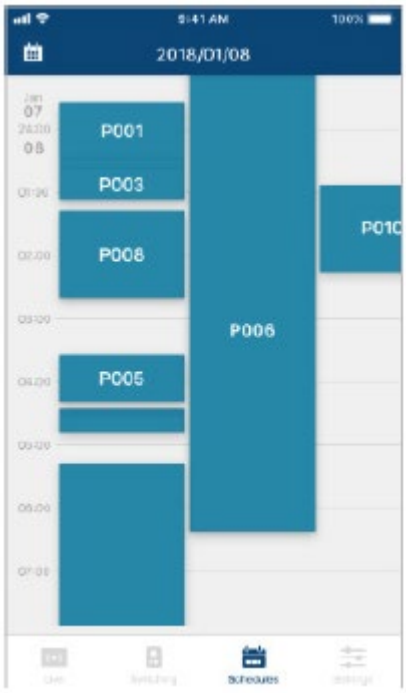
2. 画面左上にあるメニューアイコン( )をタップしてください。そうすると、下図のようなプロファイル一覧が表示されます。



3. プロファイルをタップしたら、画面内の指示に従ってプロファイルを適用してください。

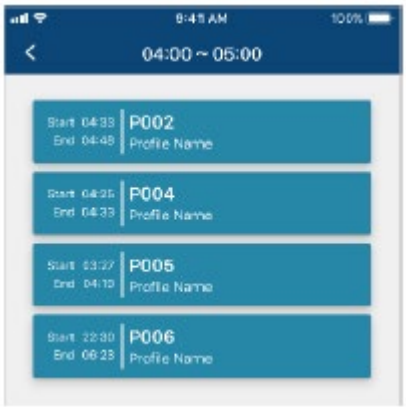
プロファイルのスケジュール設定

1. モバイル制御アプリで、「Schedule」(スケジュール)アイコン(Schedules)をタップしてください。そうすると、その日のスケジュールが表示されます。

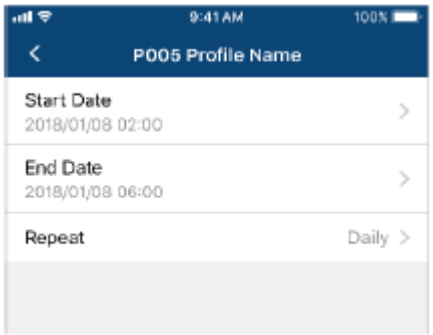


2. 違う日のスケジュールを表示するには、画面左上にあるカレンダーアイコン( )をタップして、ポップアップカレンダーから日付を選択してください。

3. プロファイルを設定したい時間枠をタップしてください。そうすると、選択した時間枠で実行されているプロファイルがすべて表示されます。例えば、4:00～5:00 の時間枠をタップすると、下図のような画面が表示されます。ここでは 4 つのプロファイルを設定することができます。



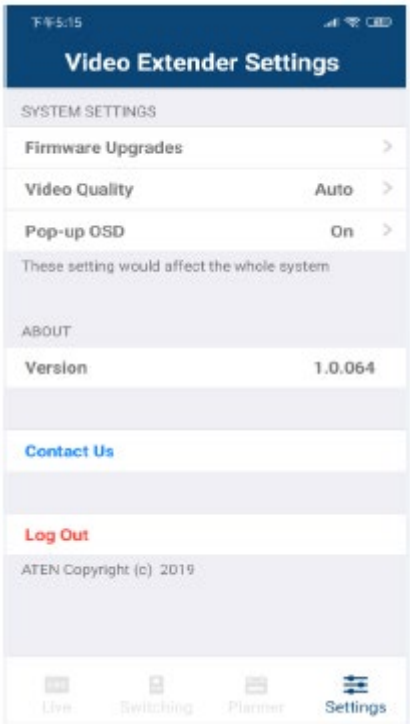
4. プロファイルをタップしたら、画面内の指示に従って、開始時刻、終了時刻、繰り返しモードをそれぞれ設定してください。



注意:	開始時刻と終了時刻の間は 24 時間以内になるように設定してください。プロファイルのスケジュールの繰り返し単位が 24 時間を超える場合は、プロファイルを 2 つに分割することでスケジュールを調整してください。

システムの設定と状態

モバイル制御アプリを使うと、VE8900/VE8950/VE8952 に対して最新のファームウェアが利用可能かどうかを確認することができます。また、このアプリから**ビデオ品質**と**ポップアップ** OSD の設定を行うこともできます。



- **Firmware Upgrades（ファームウェアアップグレード）：**VE8900/VE8950/VE8952 のトランスミッターおよびレシーバーのファームウェアのバージョンを表示します。また、各トランスミッター/レシーバーの最新ファームウェアが利用可能かどうかも、ここで確認することができます。
- **Video Quality（ビデオ品質）：**ディスプレイのビデオ品質を設定します。
- **Pop-up OSD（ポップアップ OSD）：**この項目が有効になっていると、ビデオソースの切替時に OSD が表示されます。この項目が無効になっていると、OSD は表示されません。

付録

製品仕様

VE8900

機能	VE8900T	VE8900R
デバイス接続数	1	–
ビデオ入力		
インターフェース	HDMI Type A メス×1 (Black)	–
インピーダンス	100 Ω	–
最大距離	ソースデバイスとの最大距離: 2 m	–
ビデオ出力		
インターフェース	–	HDMI Type A メス×1(Black)
インピーダンス	–	100 Ω
オーディオ		
入力	HDMI Type A メス×1 (Black) ステレオミニジャック×1 (Green)	–
出力	–	HDMI Type A メス×1(Black) ステレオミニジャック×1 (Green)
制御		
RS-232	コネクター: 3 極着脱式ターミナルブロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ストップビット:1、パリティ:無、フローコントロール:無	コネクター: 3 極着脱式ターミナルブロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ストップビット:1、パリティ:無、フローコントロール:無
IR	ミニジャック×1(Black)	ミニジャック×1(Black)

(表は次のページに続きます)

機能	VE8900T	VE8900R
USB	USB Type B　メス×1(White)	USB Type A　メス×2(Black)
コネクター		
ユニット間	RJ-45×1	RJ-45×2
ビデオ		
解像度/距離	最大 1080p/100m(カテゴリ 5e/6 ケーブル使用、1 対 1 接続の場合)	最大 1080p/100m(カテゴリ 5e/6 ケーブル使用、1 対 1 接続の場合)
最大データ伝送速度	平均 150～500Mbps	平均 150～500Mbps
規格準拠	HDMI、HDCP 1.4	HDMI、HDCP 1.4
プッシュボタン		
ID 番号選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×3
電源		
コネクター	ロック式 DC ジャック×1 (Black)	ロック式 DC ジャック×1(Black)
消費電力	DC5V:3.07W	4.2W(USB 周辺機器を接続していない場合)
動作環境		
動作温度	0～40℃	0～40℃
保管温度	-20～60℃	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと	0～80% RH、結露なきこと
ケース		
ケース材料	メタル	メタル
重量	0.50 kg	0.49 kg
ブラケット付サイズ(W×D×H)	141×123×31 mm	141×123×31 mm
ブラケット無サイズ(W×D×H)	136×101×30 mm	136×101×30 mm
同梱品	電源アダプター×1 3 極着脱式ターミナルブロック×1 クイックスタートガイド×1	電源アダプター×1 3 極着脱式ターミナルブロック×1 クイックスタートガイド×1

VE8950

機能	VE8950T	VE8950R
入力接続数	1	–
ビデオ入力		
インターフェース	HDMI Type A メス×1(Black)	–
インピーダンス	100 Ω	–
最大距離	ソースデバイスとの最大距離:2 m	–
ビデオ出力		
インターフェース	–	HDMI Type A メス×1(Black)
インピーダンス	–	100 Ω
オーディオ		
入力	HDMI Type A メス×1(Black) ステレオミニジャック×1(Green)	–
出力	–	HDMI Type A メス×1(Black) ステレオミニジャック×1(Green)
制御		
RS-232	コネクター: 3 極着脱式ターミナルブロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ストップビット:1、パリティ:無、フローコントロール:無	コネクター: 3 極着脱式ターミナルブロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ストップビット:1、パリティ:無、フローコントロール:無
IR	ミニジャック×1(Black)	ミニジャック×1(Black)
USB	USB Type B メス×1(White)	USB Type A メス×2(Black)
コネクター		
ユニット間	RJ-45×1	RJ-45×2
ビデオ		
解像度/距離	最大 4K※/100m(Cat5e/6 ケーブル使用、1 対 1 接続の場合)	最大 4K※/100m(Cat5e/6 ケーブル使用、1 対 1 接続の場合)
最大データ伝送速度	平均 150～500Mbps	平均 150～500Mbps
規格準拠	HDMI(4K※)、HDCP1.4	HDMI(4K※)、HDCP1.4
プッシュボタン		
ID 番号選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×3

(表は次のページに続きます)

機能	VE8950T	VE8950R
電源		
コネクター	ロック式 DC ジャック×1(Black)	ロック式 DC ジャック×1(Black)
消費電力	DC5V:3.08W	4.6W(USB 周辺機器を接続していない場合)
動作環境		
動作温度	0～40℃	0～40℃
保管温度	-20～60℃	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと	0～80% RH、結露なきこと
ケース		
ケース材料	メタル	メタル
重量	0.50 kg	0.49 kg
ブラケット付サイズ(W×D×H)	141×123×31 mm	141×123×31 mm
ブラケット無サイズ(W×D×H)	136×101×30 mm	136×101×30 mm
同梱品	電源アダプター×1 3 極着脱式ターミナルブロック×1 クイックスタートガイド×1	電源アダプター×1 3 極着脱式ターミナルブロック×1 クイックスタートガイド×1
注意	※対応する4K解像度は、3840×2160@30Hz(4:4:4)、3840×2160@60Hz(4:2:0)、4096×2160@30Hz(4:4:4)、4096×2160@60Hz(4:2:0)です。	※対応する 4K 解像度は、3840×2160@30Hz(4:4:4)、4096×2160@30Hz(4:4:4)です。

VE8952

機能	VE8952T	VE8952R
入力接続数	1	-
ビデオ入力		
インターフェース	HDMI Type-A メス×1(Black)	HDMI Type-A メス×1(Black)
インピーダンス	100 Ω	100 Ω
最大距離	ソースデバイスとの最大距離:3 m (2L-7D03H 使用)	3 m(2L-7D03H 使用)
オーディオ		
入力	HDMI Type-A メス×1(Black) ステレオミニジャック メス×1 (Green)	HDMI Type-A メス×1(Black) ステレオミニジャック メス×1 (Green)
制御		
RS-232C	コネクター:3 極着脱式ターミナルブロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ストップビット:1、パリティ:無、フローコントロール:無	コネクター:3 極着脱式ターミナルブロック×1 ボーレート:19200、データビット:8、ストップビット:1、パリティ:無、フローコントロール:無
IR	ミニジャック×1(Black)	ミニジャック×1(Black)
USB	USB Type-B メス×1(White)	USB Type-A メス×2(Black)
コネクター		
ユニット間	RJ-45 メス×1	RJ-45 メス×2
電源	ロック式 DC 電源ジャック×1 (Black)または RJ-45 メス(PoE)×1	ロック式 DC 電源ジャック×1 (Black)または RJ-45 メス(PoE)×1
ビデオ		
解像度/距離	最大 4K※/100m(Cat5e/6 ケーブル使用、1 対 1 接続の場合)	最大 4K※/100m(Cat5e/6 ケーブル使用、1 対 1 接続の場合)
最大データ伝送速度	平均 150～500Mbps	平均 150～500Mbps
規格準拠	HDMI(4K※)、HDCP1.4 準拠	HDMI(4K※)、HDCP 準拠
プッシュボタン		
ID 番号選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×3

(表は次のページに続きます)

機能	VE8952T	VE8952R
電源		
消費電力	DC5V：3.49W PoE：4.36W	DC5V：5.22W PoE：6.52W
動作環境		
動作温度	0～40℃	0～40℃
保管温度	-20～60℃	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと	0～80% RH、結露なきこと
ケース		
ケース材料	メタル	メタル
重量	0.67 kg	0.68 kg
ブラケット付サイズ(W×D×H)	170.2×146.9×30 mm	170.2×146.9×30 mm
ブラケット無サイズ(W×D×H)	166×124.9×29 mm	166×124.9×29 mm
同梱品	3 極着脱式ターミナルブロック×1 電源アダプター×1 フットパッド（4pcs）×1 クイックスタートガイド×1	3 極着脱式ターミナルブロック×1 電源アダプター×1 フットパッド（4pcs）×1 クイックスタートガイド×1
注意	※対応する 4K 解像度は、3840 × 2160@30Hz(4:4:4)、3840 × 2160@60Hz(4:2:0)、4096 × 2160@30Hz(4:4:4)、4096 × 2160@60Hz(4:2:0)です。	※対応する 4K 解像度は、3840×2160@30Hz(4:4:4)、4096 × 2160@30Hz(4:4:4)です。

対応ブラウザ

本製品に対応しているWebブラウザおよびバージョンについては下表を参照してください。

Webブラウザ	対応バージョン
Google Chrome	60.0.3112 以降
Mozilla Firefox	54.0.1 以降
Opera	46 以降